

2013.4/ No.136

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

特集

適塾へ行こう

適塾創設175周年、緒方洪庵没後150年に当たって

Contents

03 Topics

平成24年度卒業式・大学院学位記授与式 平成25年度入学式を挙行

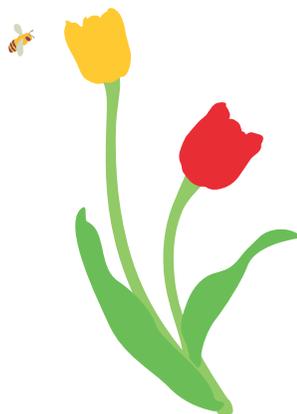
平成25年度入学式 総長告辞<要旨>
ようこそ大阪大学へ!!
平成24年度卒業式・大学院学位記授与式 総長式辞<要旨>



10 特集①

適塾へ行こう

適塾創設175周年、緒方洪庵没後150年に当たって
緒方洪庵と適塾
洪庵の学問と医業、社会貢献
適塾の資料
本学学生が175年の歴史を実感
関連書籍の紹介
今年度の適塾関連事業／適塾記念会入会の案内



22 特集②

臓器提供してよかった」と思えるために —生体肝移植ドナーのQOL向上をめざして—

24 役員室だより

27 「大阪大学未来セミナー」今年も開催します!

28 阪大ほっとニュース

32 阪大百景

33 職員インタビュー

34 阪大の組織 AtoZ

36 表彰 等

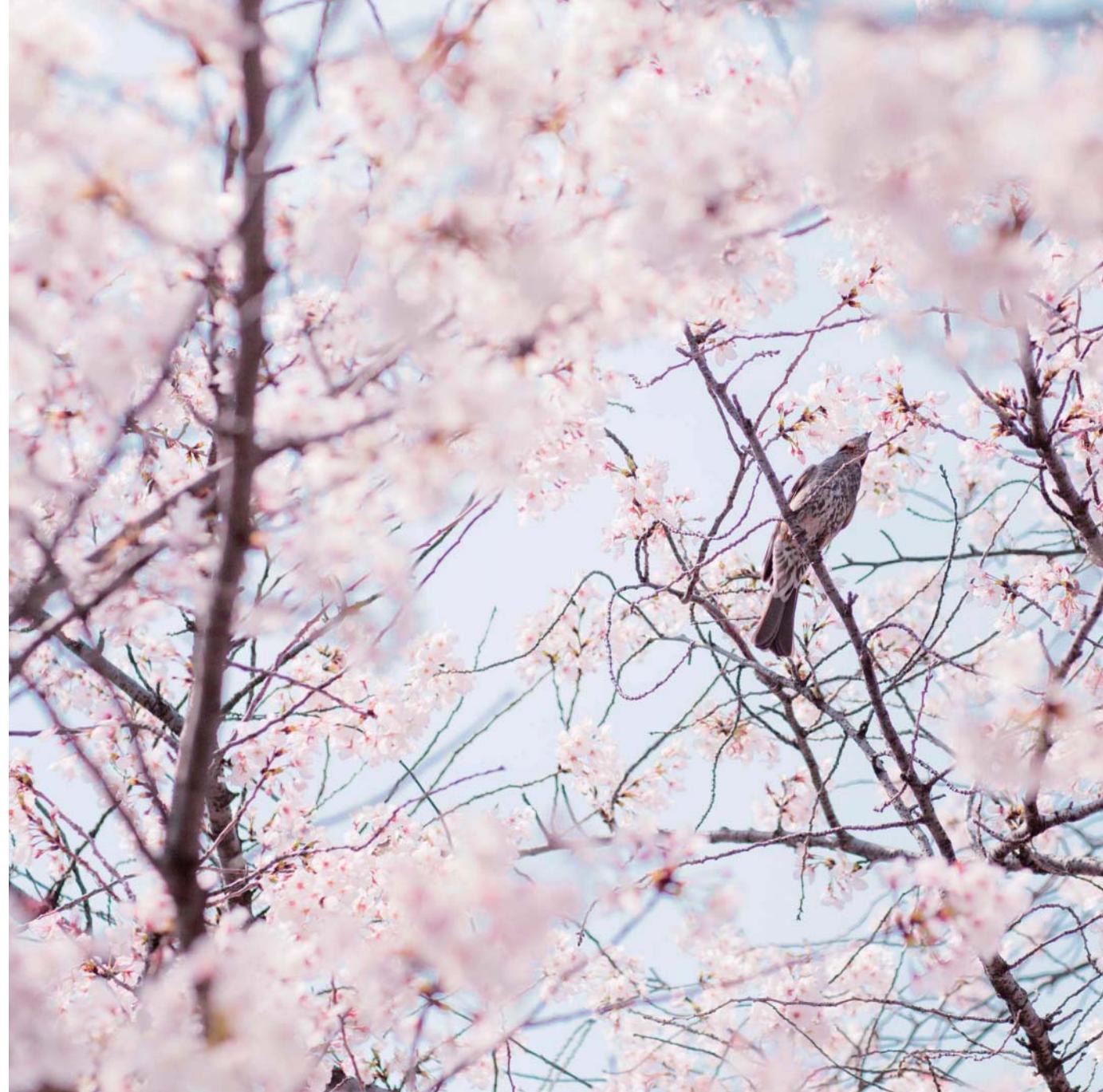
38 人事／訃報

41 学内の施設が新しくなりました

42 Information



表紙写真：適塾



Topics

平成24年度卒業式・大学院学位記授与式 平成25年度入学式を挙行

3月25日、3,385名の学部生が卒業し、2,097名に修士の学位、57名に法務博士、521名に博士の学位がそれぞれ授与されました。4月2日には、学部生3,536名、大学院生2,951名、総勢6,487名の学生が本学に入学しました。

平成25年度入学式 総長告辞 <要旨> 「夢は叶えるためにある」

皆さん、入学ならびに進学おめでとうございます。また、ご臨席いただきましたご家族の皆さまに心よりお祝い申し上げます。

あらゆる可能性を秘めた前途洋々たる皆さんが、大阪大学の一員として、あらたな人生を歩むその瞬間に立ち会うことができ、大阪大学総長として、これほど嬉しいことはありません。

はじめに、皆さんがこれから過ごす、この大阪大学について、少しお話をいたします。大阪大学は「大阪にも帝国大学を」という地元大阪府民の熱意と関係者の努力により、帝国大学にも関わらず、創立の準備金や当座の運営資金を大阪の有志で手配したという歴史を持つ大学です。その大阪大学の原点は、江戸時代末期の1838年に緒方洪庵が設立した「適塾」に見いだせます。外国語学部のルーツである大阪外国語学校出身の司馬遼太郎が小説『花神』の冒頭で、適塾を大阪大学の「前身」、緒方洪庵を「校祖」と表現しています。

適塾には全国から1000名以上の塾生が集まり、日夜勉学に励みました。その中には塾頭を務め、後に慶応義塾大学を創設した福沢諭吉、諭吉の後に塾頭を務め、我が国の医療制度、公衆衛生制度の基礎を築いた長与専斎、安政の大獄で25歳の若い命を落とした橋本左内、日本赤十字社の前身の博愛社を創設した佐野常民、明治政府で近代的な軍隊制度を創った大村益次郎、外交で列強各国と対峙し活躍した大鳥圭介、さらには1810年に設立された東京大学医学部の初代総理を努めた池田謙斎など、様々な分野でリーダーとして活躍した人々が適塾で育ちました。



初代総長で、我が国における原子物理学の父であり、土星型の原子模型を提唱した長岡半太郎先生は次のような言葉を残しております。

「糟粕を嘗る勿れ」

長岡総長はこの言葉を直筆の額として本学に残しており、現在、それは総長室に掲げられています。糟粕とは酒の搾りかすで、滋養すなわちスピリッツをとりきった不要物、精神のない遺物などを意味します。「糟粕(そうはく)を嘗(なむ)る勿(なか)れ」とは、すなわち「先人の精神を汲み取らず、形だけをまねるようなことはするな」という意味です。これこそが適塾から現在につながる大阪大学で、皆さんに体得して欲しいと願う学問の姿勢です。

夢や理想は実現が困難だから夢であり理想と呼ばれます。現実と夢があまりにもかけ離れているが故に、人は夢を決して手に入れることができない遙か彼方の蜃気楼だとあきらめてしまいます。しかし、夢を忘れることなく、夢に向かう努力を一步一步していると、いつの日か夢が現実のものとなります。私はそう信じて人生を歩んできました。そして、目の前の山を1歩1歩登りきって欲しいと思います。

皆さんは、今、大阪大学に入学という一つの大きな山の頂に立っているのです。皆さんはその頂に、どのような思いで立っているのでしょうか?ここまでの長い道のりを思い出しながら、感慨に耽り目の前の新しい景色を見つめているのかもしれませんが。あるいは、これから挑戦しなければならない、眼前に聳え立つ山々を仰いでいるのかもしれませんが。



皆さん一人一人が見ている景色は様々で異なることでしょう。しかし、皆さんに共通しているのは、その景色は皆さんが今まで見たこともない、経験したこともない景色であるということです。

私は、常日ごろ若い人と話す機会があると、「目の前の山に登りきる」ことの重要性を語ってきました。山に登るだけでは得られない経験が頂上まで「登りきる」ことで得られるのです。皆さんの前には登るべき山として常に越えなければならない試練や困難、あるいは叶えたいと強く願う志や夢があるはずです。人は夢を心に、あるいは未来への希望を胸に目の前の試練や障害を乗り越えて行こうと努力し、そして目の前に聳えている山に登って行きます。

人生における山では、頂上に立って初めてその山の高さがわかります。何より重要なことは、たとえ登りきった山が低い山であったとしても、登りきるにより、今まで見たこともない景色を見ることができるとことです。これから進むべき道が、挑戦するべき山が展望できるのです。人生における登山では、どこにも標識はありません。今、自分が何合目にいるのか、それは誰にもわかりません。頂上に立ったとき、「自分が頂上に立ったこと」を初めて知るので。頂上は、それを求める努力をし、必ずあると信じている人の前に、突如現れます。それは心の準備ができていない人に突如訪れる「ひらめき」そのものです。

皆さんは本日晴れて1つの山の頂に立つことの喜び、その意味、そしてその先に広がる未来という素晴らしい景色を展望できることを実感しておられるはずです。1回でも苦しいプロセスを経て頂上に立つことができた人と、途中で下山した人では、大きな違いが生じます。今回の経験を忘れることなく、これからも目の前の山を一つ一つ登りきる努力を怠らず、目指すべき山の頂に立って欲しいと思います。長い人生では山もあれば、谷もあります。たとえ谷底に落ちて、それは次の山登りの絶好のチャンスと捉えて、次の山を目指せばいいのです。いつまでも未来への希望と夢を失うことなく、皆さんそれぞれの目の前の山に登りきってください。

君たちは、未来という無限の可能性を持っています。どうぞ、この瞬間の、この感激を忘れずに、大いなる志と夢をもって、大鵬のように大空に羽ばたいてください。

夢は叶えるためにこそあるのです。

平成25年4月2日

大阪大学総長

外国語学部アラビア語学科

関西弁への憧れがあり、受験科目などから大阪大学を選びました。初めて梅田に足を踏み入れた時は、その都会っぷりに驚きました。大学では、高校の時にサッカーのマネージャーをやっていたので、引き続きやりたいと考えています。



外国語学部ベトナム語学科

経済学に興味がありましたが、外国語学部では幅広く地域研究ができると考えました。ベトナムは今後経済発展が期待できる地域。将来は、現地に乗り込んでビジネスをしたいです。阪大の学生は要領いいイメージがあるので、僕も勉強、課外活動、アルバイトなどをバランスよくこなしていきたいです。



高等司法研究科 (男性)

阪大への入学は、過去の司法試験合格実績などを見て決めました。勉強に不安がありますが、一発合格できるように頑張りたいので、大学からのご支援もお願いしたいです。(お母様から-息子が合格できるように、できる範囲でバックアップしていきたいです。)



外国語学部 & 経済学部

母国の中国では大阪大学がすごく有名。レベルが高く、国内で注目度も高いので、入学できてとても嬉しいです。入学後は一生懸命勉強をして、日本でしかできないいろんな体験もしたい。将来日本で就職するために、日本人の友達をたくさんつくって、日本の文化や考え方を理解したいです。



医学部

阪大は第一志望だったので、入学できてうれしいです。臨床を志望しています。全国から集まったレベルの高い学生と切磋琢磨して、日本の医療を高めるために頑張りたいです。また、勉強だけでなく、スポーツ系のサークルやボランティアにも参加したいと思っています。



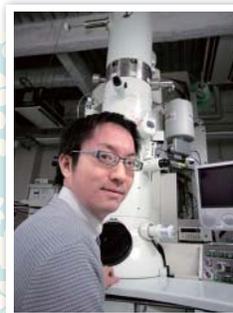
入学式直前の学生にインタビュー!

ようこそ 大阪大 学へ!!

この4月に入学・就職した学生と職員の方にお話を伺いました。

薬学部薬科学科

一つのことを突き詰めてやるのが好きで、研究者になりたいと考えていました。物理学などの本も読みましたが、新しい発見、効用を見つけることに魅力を感じて薬学部を選びました。順調に単位が取れるように頑張ります。まずは、履修登録が無事に終われるかが心配です(笑)。(お母様から-しっかり考えて大学を選んだようなので、自分の道を信じて頑張ってください。)



基礎工学部情報科学科 (男性)

理系の学部が充実しているので、大阪大学に入りたいと思いました。アルバイトなど、これまでやったことのないことを経験してみたい。(お母様から-まずは健康に気を付けて頑張ってください。息子が選んだ道だから、親としては暖かく見守っていきます。)

橋本 みなみ

医学部附属病院医事課 医療事務管理係

- ① 大阪市民の設立した大学! 社学連携を重視している点はユニークだと思いました。
- ② 広くて明るいキャンパス(吹田)が印象深いです。病院も併設なので、様々な方が集まっていますね。
- ③ 憧れの研究者のトークイベントの企画や、学生向けの広報など、学部生のチャレンジを支援したいです。

泉谷 龍成

工学研究科教務課 教務係

- ① 「歴史」と「未来」の両方を肌で感じられる学びの空間。
- ② 親しみがありながらも常に新鮮さを与えてくれるイメージを持っています。
- ③ 教員・学生・職員がより密に情報交換を行い、職員として全力で皆様をサポートしていきたいです。



橋本 英幸

財務部財務課 財務第二係

- ① 国内で存在感のある大学。世界に対してその名を広めている印象があります。
- ② とてもきれいなキャンパスで、散歩するのが楽しくなります。建物の大きさに圧倒されました。
- ③ 大学で働くことをずっと望んでいました。これからの業務がとても楽しみです。



六車 彩都子

附属図書館吹田地区図書館サービス課

- ① 高度な研究機関。自然科学系に強いイメージ。
- ② 暖かみのある場所。職員の方々の雰囲気も他大学よりも人間味があるように感じました。
- ③ 附属図書館に勤めますので、授業や研究の資料集めのときに頼ってもらえるような存在になりたいと思います。



本学職員になられた方へ3つの質問!

- ① 大阪大学の印象
- ② 大阪大学のイメージ
- ③ 今後やってみたいこと

村上 洋輔

産業科学研究所技術室 計画班分析データ処理係

- ① 真面目で優秀な学生が集まり、産業や医学などの分野で民間と連携しているイメージがあります。
- ② 緑が多く、静かで広大なキャンパス。研究に打ち込むのに理想的な環境だと思いました。
- ③ 技術職員として、日本のものづくりを元気にするような研究や人材の育成に尽力したいです。

豊田 智子

学生部入試課 入試第一係

- ① 常により良い大学になるように新しいことにチャレンジしている。
- ② 緑が多くキャンパスが整備されている。
- ③ 在学生に大阪大学に入ってよかったと思ってもらいたいです。



岡嶋 里沙

施設部整備課 建築計画係

- ① 広くてきれいな。最先端の研究を行っている。
- ② 最先端だけではなく伝統もあり、歴史の感じられる場所。
- ③ 伝統や最先端技術を大切に、学生や職員だけでなく、地域にやさしい空間を創っていきたいです。



平成24年度卒業式・大学院学位記授与式 総長式辞 <要旨> 「己を知り、己を磨き、世界に羽ばたく」



本日、大阪大学から新たな一歩を踏み出さんとされている 3385 名の学部卒業生の皆さん、2618 名の大学院修了生の皆さん、そして専門職博士の学位を授与された 57 名の皆さん、この卒業と修了の式にあたり、これまで皆さんが積み重ねてきた努力と研鑽とを、大阪大学を代表いたしまして心から讃えたいと思います。本日はおめでとうございます。

また、この日まで長きにわたって皆さんの勉学と研究を支えてこられたご家族の方々に心よりお祝い申し上げますとともに、深く敬意を表したく存じます。

皆さんは、本日晴れて学士や修士そして博士の学位を取得され、一人一人が、これから進むべき道に夢を膨らませておられることと思います。皆さんは、大阪大学で、授業学習や研究活動、あるいはクラブ活動や社会活動など様々な経験を積み重ねました。いずれの分野に進もうとも、その分野のリーダーになって我が国の将来は勿論のこと、世界人類の発展と福祉の向上に貢献して欲しいと思います。大阪大学で学んだ皆さんには、グローバルに活躍できるリーダーとしての能力が備わっていることを誇りに、品格を持って進んでいただきたいと思ひます。

では、グローバルに活躍するとはどのようなことでしょうか？

グローバル人間に必要なものとして、私は、「物事の本質を見極める能力」と「恕、寛容、共生」の考え方が重要であると思ひます。

メソポタミア文明、インダス文明や黄河文明など特定の地域に端を発した人類の歩みは、長い歴史を経て、今やその活動を地球規模に広げています。この結果、人間の活躍の場は「均一性」から「多様性」の世界へと急激に変化を遂げています。あらゆる問題は単一要因的な事象から複雑要因的な事象へと変化しています。地球温暖化、エネルギー問題、食料問題や人口問題、そして感染症問題など様々な原因が複雑に入り組み、それぞれの解決策を見出すことすら困難です。

このような時代において、「均一性」から「多様性」への変化を認識し、異文化の相互理解と相互尊重なくして、人類の未来はないといえるでしょう。つまり、物事を高い次元で観ることが求められているのです。「木を観て森を観ず」という言葉があります。一本の木にとって都合の良いことが、必ずしも森全体にとって最善の策とは限りません。短期的にはその木にとって最善の策であっても森全体にとって悪影響があれば、結局はその木にとっても長期的には命取りとなります。つまり、これからの世界においては、何かの決断をする時に、「何が物事の本質であるかを見極

める能力」が最も重要であり、その実践のためには複眼的視点と俯瞰的視点を兼ね備えていなければなりません。

さて、どのような組織や個人でも、過去の歴史や生い立ちに由来し、経験はDNAとして受け継がれています。皆さんが未来を語る際には決してそれらを無視できません。本日、皆さんは「大阪大学で学んだ」という共通の歴史を有することになりました。大阪大学卒業生であるということは、社会から「選ばれた人」として見られ、社会に対する責任も有します。「己を知る」為には大阪大学を知る必要があります。では、皆さんが学んだ大阪大学とは一体どのような大学でしょうか。大阪大学を卒業されるにあたり、皆さんの未来を形成する重要な一部になる大阪大学を今一度考えてみたいと思ひます。

皆さんが学び、本日卒業する大阪大学は、原点である「人のため、世のため、国のため、道のため」という精神、そこで学んだ若者たちの偉大なる志、大坂町人の学問への情熱、そして大阪府民の熱意が脈々と受け継がれているのです。そのことを誇りに思ひいただき、「大阪大学で学んだ」ということを、皆さんのこれからの礎としていただきたいのです。

人類の未来は、若い皆さん一人一人の双肩にかかっています。社会が皆さんに求めているところは、様々な分野で責任あるリーダーとして社会に対する責務を果たすことです。あるいは、大阪大学で養われた知的創造活動としての基礎研究や応用研究から学んだ探求心の更なる推進です。このようなことは本学で研鑽を積み重ねた皆さんだからこそ成しうることです。社会が閉塞した江戸末期、適塾で学んだ先輩方が、我が国に新たな風を吹き込んだように、皆さんには、大きな「志」を持っていただきたいと思ひます。

皆さんは、企業や行政機関など第一線で活躍する社会人として、あるいは各種教育研究機関で次世代の人材を育成する教育者として、あるいは未来を切り拓く研究者として、そして一人の人間として、長い人生を送られるわけですが、今日の感激を忘れることなく、一瞬一瞬を大事にして、大阪大学の卒業生であるという誇りと自信を持って、未来に向かって飛躍していただきたいと思ひます。そして大阪大学はいつでも皆さんを応援しています。是非とも笑顔を見せに大阪大学のキャンパスを訪れてください。

最後にサミエル・ウルマン原作、岡田義夫訳、「青春」の詩を皆さんに贈ります。なお出典は青春の会 (<http://www.rik.co.jp/itai/Y-SEISHUN.htm>) です。

青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。

優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。理想を失うときに初めて老いが来る。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。

苦悶や狐疑や、不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。

年は七十であろうと十六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。

日く、驚異への愛慕心、空にきらめく星座、その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、事に処する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まぬ探求心、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く疑惑と共に老ゆる、人は自信と共に若く恐怖と共に老ゆる、希望ある限り若く失望と共に老い朽ちる。

大地より、神より、人より、美と喜び、勇気と壮大、そして偉力の靈感を受ける限り、人の若さは失われぬ。

これらの靈感が絶え、悲嘆の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを堅くとぎすに至れば、この時にこそ人は全く老いて、神の憐れみを乞うる他はなくなる。

最後になりましたが、皆さんお一人お一人がこれからの長い生涯、健康で幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈ります。

己を知り、己を磨き、世界に羽ばたいて欲しいと思ひます。本日はご卒業おめでとうございます。

平成25年3月25日

大阪大学総長

1 適塾へ行こう

適塾創設175周年、緒方洪庵没後150年に当たって

適塾記念センター副センター長 木下 タロウ

2013年(平成25年)は、緒方洪庵が適塾を開いた1838年(天保9年)から数えて175年目、また、洪庵が数え年54才で亡くなって150年目に当たる二重の節目の年です。この記念の年に、大阪大学の“源流”あるいは“精神的源流”と位置づけられる適塾について、そして洪庵について、今一度その精神を思い起こすことは意義あることと思います。

適塾開塾は明治維新まで30年という、社会に閉塞感が漂い、天然痘やコレラといった得体の知れない恐怖に曝されていた時期でした。洪庵の学問は、蘭学を活路を求めた多くの若者を日本各地から引きつけ、そして大きく育みましました。適塾で学んだ千人を超える門下生から、日本の近代化に大きく貢献した人物が何人も輩出したことは周知のことです。歴史に名を残す人々だけでなく、各地で教育や医療に携わった門下生たちが日本の速やかな近代化を支えたことも疑いのないことです。

当時の塾生たちの勉強の様子を、福澤諭吉は、「学問勉強ということになっては、当時世の中に緒方塾生の右に出る者はなかりと思われるその一例を申せば、(中略)時は何時でも構わぬ、ほとんど昼夜の区別はない、日が暮れたからといって寝ようと思わず、頻りに書を読んでいる。読書にくたびれ眠くなって来れば、机の上に突っ伏して眠るか、あるいは床の間の床縁を枕にして眠るか、ついぞ本当に蒲団を敷いて夜具を掛けて枕をして寝るなどということは、ただの一度もしたことがない。(中略)これは私一人が別段に勉強生でも何でもない、同窓生は大抵みなそんなもので、およそ勉強ということについては、実にこの上にはもうはないというほどに勉強していました。」と『福翁自伝』で述べ、近代医制、公衆衛生体制を整えた長与専斎(ながよせんさい)は、「塾中畳一枚を一席とし、其内に机・夜具

其他の諸道具を置き、此に起臥することにてすこぶ窮屈なり。なかんずく或は往来筋となり、又は壁に面したる席に居れば、夜間人に踏み起こされ、昼間燭を点して読書するなどの困難あり。然るに毎月末、席換えとして輪講の席順に従い、上位の者より好み好みに席を取ることをゆえ、一点にても勝を占めたる者は次の人を追退けて其席を占むることを得るなり」と自伝『松香私志』に記しています。

こうした熱気に満ちた学びの場であった適塾の建物は、奇跡的に戦災を免れ、大阪北浜に現存し、一般公開されています。適塾門下生を中心メンバーとして大阪仮病院が明治初期に設置され、その学問が今日の大阪大学へと連綿とつながっていることから、適塾は大阪大学の“源流”と位置づけられています。教職員の皆様、学生諸君もぜひこの記念の年に一度訪れ、当時の雰囲気を感じ、塾生たちの志に思いを馳せていただければと思います。

この阪大NOWでは、適塾特集として、適塾の歴史、保存されている適塾関連の資料、適塾と周辺の史跡スポット、適塾の精神を継承する大阪大学の取り組みなどが紹介されていますので、ぜひお楽しみ下さい。



適塾外観

1 適塾へ行こう

— 緒方洪庵と適塾

【緒方洪庵と適塾】

緒方洪庵は、文化7年(1810)に足守藩士・佐伯瀬左衛門惟因とキョウの三男として備中足守藩(現在の岡山市足守)に生まれました。武士の子として文武の修業に励んでいましたが、病気がちだったため、早くから医の道を志すに至ったといひます。洪庵は父・惟因の大坂蔵屋敷留守居役就任にともなって大坂へ来、蘭学者中天游の下で蘭学修業の道に入りました。以後、江戸や長崎でも研鑽を重ね、今から175年前、天保9年(1838)に大坂の瓦町に適々斎塾(適塾、適々塾とも)を開きました。



「緒方洪庵肖像」
南讓画 嘉永3年(1850)

適塾には蘭学・医学を志す門人が全国から集まり盛況となったため、塾を開いて8年後の弘化2年(1845)末には過書町(現在の中央区北浜三丁目)に適塾を移転、拡張しました。これが、現在中央区北浜に残る適塾(史跡・重要文化財)です。この建物は、寛政4年(1792)の周辺一帯の大火以降に建てられたと推定されており、現存する近世大坂の町屋遺構としても、きわめて貴重なものです。



大広間

洪庵はこの地で診療活動に励むかわら、蘭医学を研究し、数々の著訳書を翻訳・出版すると同時に、塾生の教育に当たりました。また、種痘事業やコレラ治療といった当時の社会的な問題にも精力的に取り組んだのです。文久2年(1862)に、幕府奥医師兼西洋医学所頭取として幕府に出仕した翌年、洪庵は数え年54歳で江戸にて死去しました。今から150年前のことです。

洪庵が江戸へ去った後も、洪庵の養子の拙齋らが適塾を守り、明治19年(1886)頃まで塾生の教育は継続されます。一方、明治初期に緒方惟準(洪庵次男)を院長にすえた大阪仮病院と、オランダ人医師ボードインを迎えて洪庵の三男の惟準はじめ適塾出身者らを中心として創立された大阪医学校は、幾多の変遷を経て、大阪帝国大学医学部、そして大阪大学医学部へと発展し今日にいたっています。2011年に大阪大学適塾記念センターが設立され、適塾および緒方洪庵に関する調査研究と資料の適切な管理をすすめています。

【適塾の塾生たち】

天保9年(1838)の開塾以来、適塾には医学・蘭学を志す数多の人々が全国各地から集まりました。門人帳「姓名録」には636名分の署名があり、通塾生や記載もれの者を合わせると、洪庵が江戸へ移る文久2年(1862)までの24年間で、およそ1,000名が入門したと推測されています。

適塾からは、慶應義塾の創立者福澤諭吉や、初代の内務省衛生局長となった長与専斎、近代日本兵制の創始者ともいわれる大村益次郎らをはじめ、近代日本を牽引することとなる多数の人材を輩出しました。一方で、多くの塾生が郷里に帰って知識を伝授し、医師として地域医療や種痘事業に貢献したという点においても、適塾の日本近代化における歴史的意義は大きいものです。

(適塾記念センター准教授 廣川和花)

{ 適塾の展示が33年ぶりにリニューアルされました }

適塾では、2013年4月2日から、より深く洪庵と適塾の歴史を知っていただけるよう、適塾の一般公開の開始以来、33年ぶりに展示を一新しました。リニューアル以前は展示環境への憂慮もあり、展示資料が少なく、パネル等の解説も年月を経て部分的な変更を重ねていたため、統一感に欠けるものとなっていました。今回、豊富な資料(レプリカ)とわかりやすい解説パネル、系統立てた展示の流れの見直しにより、新しい研究成果をふまえて、洪庵の業績や塾での生活がより身近に感じられるよう大きく改善されました。適塾の創設175周年、緒方洪庵(1810-1863)の没後150年の記念の年をきっかけに、ぜひ一度適塾に足をお運びください。

左：女中部屋(2階)

江戸時代後期の洋学の全体的な流れと大坂での蘭学の発展を、適塾とのかかわりで示す。なぜ適塾に多くの俊英が集まったのか、時代状況から理解できる。

右：塾生大部屋(2階)

塾生と緒方洪庵の交流を紹介。これまで洪庵の自筆書簡は展示が難しかったが、レプリカを取り入れることによって数多くの資料を紹介できるようになった。



{ 適塾概要 }

住所：大阪市中央区北浜3丁目3番8号
電話：06-6231-1970
開館時間：午前10時～午後4時
休館日：月曜日(国民の祝日の場合は開館)
国民の祝日の翌日(土・日・祝日の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)
参観料：一般 250円(20名以上の団体 130円)
大学生、高校生 130円(同上 70円)
※ただし、大阪大学の学生は無料(要学生証提示)
中学生以下 無料
展示資料点数：約60点
交通のご案内：①京阪電車「淀屋橋駅」、「北浜駅」徒歩5分
②地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」徒歩5分

— 常設展示概要 —

- 1階：洪庵の業績や生涯を中心とした展示
緒方洪庵と適塾、洪庵の学問、洪庵の医業、種痘事業、洪庵とその家族
- 2階：適塾の歴史的意義、塾生の生活と活躍についての展示
江戸時代後期の洋学、大坂の蘭学、適塾でのオランダ語学習、適塾の塾生たち、塾生と洪庵の交流、洪庵の後継者たち、適塾から大阪大学へ

本学ウェブページ(www.osaka-u.ac.jp)から
大阪大学適塾記念センターで検索

1

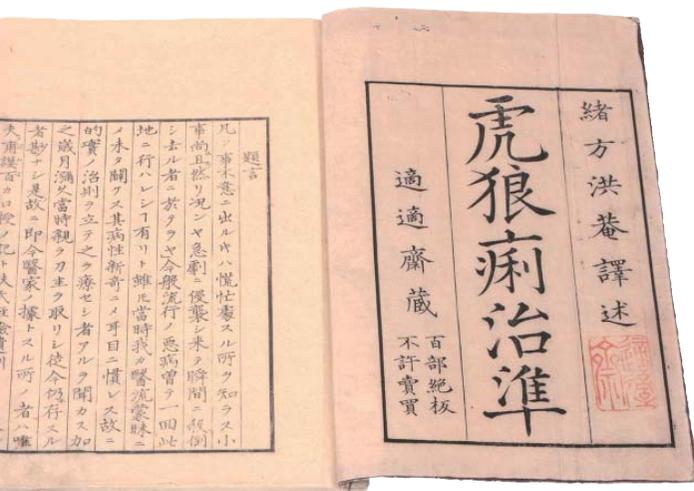
適塾へ行こう

— 洪庵の学問と医業、社会貢献

【緒方洪庵の医学】

洪庵の蘭学修業は、文政9年(1826)に大坂の蘭学者・中天游へ入門したことに始まります。天保2年(1831)には、江戸で蘭学塾を開いていた坪井信道に入門し、さらに信道の師にあたる宇田川玄真(榛齋)にも教えを受けました。洪庵の『病学通論』に寄せられた坪井信道の題言からは、洪庵の翻訳能力に対する玄真の深い信頼がうかがえます。同7年には長崎遊学も果たし、これらの修業期間を経て、洪庵の蘭医学研究と翻訳能力が磨かれていきました。

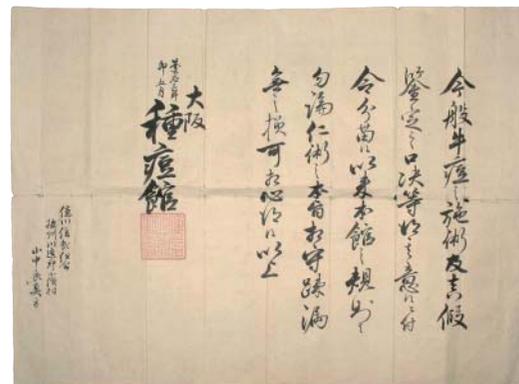
洪庵の学問的業績は多岐にわたりますが、その主著は、版本(印刷物)として刊行された次の三部で、当時最先端の病理学の総論である『病学通論』、ドイツの医学者フーフェラントの内科書の翻訳『扶氏経験遺訓』、そしてコレラ治療の指針『虎狼痢治準』がそれに当たります。これらに加え、『人身窮理学小解』や『薬品述語集』『視力乏弱論』など、写本の形でも多くの著訳書が残されています。



「虎狼痢治準」
安政5年(1858)

医師としての洪庵の評価は高く、適塾開設と同時に医業を開業して以来、ほぼ毎日往診に赴き、時には優秀な塾生に代理診察を任せました。開業2年にして当時の人気医師ランキングである医師番付に掲載されており、その腕の確かさと誠実さは市井の評判を呼んだのでしょう。

日々の診療活動に加えて、洪庵は種痘事業とコレラ対策という、現在でいう予防医学や公衆衛生の分野でも先駆的な活動を展開しました。当時、天然痘は致死率・感染率ともに高く、人々に最も恐れられた病のひとつでした。また、あらたな感染症の脅威にさらされていた幕末の日本では、コレラの大流行がくり返し起こり、大きな社会不安のもととなっていました。大坂での牛痘種痘(今でいうワクチン)の普及を目指した洪庵は、嘉永2年(1849)11月、古手町に除痘館を開いて人々にいち早く種痘を施し、同時に各地の医師へ痘苗を分け与え、西日本における種痘の普及に大きく貢献しました。安政5年(1858)のコレラ大流行に際しては、治療法が記された蘭書をいち早く翻訳し『虎狼痢治準』としてまとめ、緊急出版しました。どちらも困難をともしものでしたが、根気よく、病に苦しむ人々を救うべく努力を重ねた洪庵の姿勢からは、社会に対する責任感の強さが伝わってきます。



大阪種痘館発行の分苗免状
慶応3年(1867)

【洪庵とその家族】

洪庵は大坂に定住後も、折に触れて郷里の足守とのつながりを大切にしました。また、洪庵と適塾を支えた妻・八重の存在を忘れることはできません。八重は播磨国名塩の医師・億川百記の長女で、ふたりは洪庵の師・中天游の勧めで天保9年(1838)に結婚しました。八重は緒方家の家事をこなす傍ら、親切に患者を世話し、適塾生に対しても慈しみを忘れず、時にはよき相談相手にもなりました。洪庵との間には七男六女(うち長男・長女・二女・四男は夭逝)に恵まれました。明治19年(1886)2月7日、大阪で65歳の生涯を閉じました。



左「緒方洪庵肖像」 右「緒方八重肖像」
いずれも五姓田義松画 明治34年(1901)

【洪庵と八重のふるさと：足守と名塩】

緒方洪庵の生誕地(佐伯家屋敷跡)である岡山市足守には、洪庵の偉業を称える石碑と像が建立され、人々に親しまれています。また、八重夫人は現在の兵庫県西宮市名塩で生まれ、生誕地である旧億川百記邸跡のある通りは現在「蘭学通り」と呼ばれ、跡地には八重夫人の胸像が立てられています。

(適塾記念センター准教授 廣川和花)



足守の記念碑



名塩の八重夫人胸像

【大阪大学と適塾】

1942年、適塾は、洪庵の子息や適塾関係者らによって明治初期に設立された大阪仮病院や大阪医学校を源流とする、大阪帝国大学(当時)へ寄附されました。1964年に「旧緒方洪庵住宅」として重要文化財に指定されましたが、建物の老朽化が進んだため、大阪大学では適塾管理運営委員会を設け、1976年から1880年にかけて文化庁の支援の下で解体修復工事を行い、可能な限り洪庵の頃の姿に復元しました。こうして解体修復後の1980年5月、適塾の一般公開がはじまったのです。同年11月には皇太子同妃両殿下(当時)がご視察されています。



皇太子ご夫妻(当時)のご視察



解体中の写真

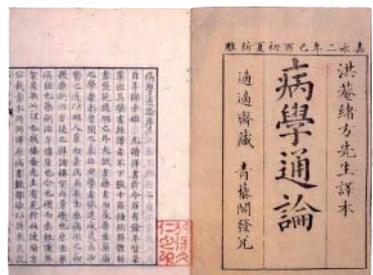
1 適塾へ行こう

— 適塾の資料



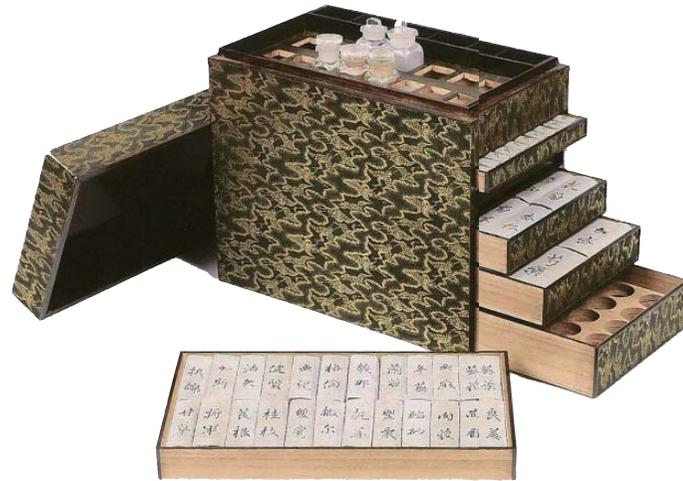
扶氏経験遺訓

全30巻 緒方洪庵訳 安政4年(1857)
 大阪大学附属図書館所蔵
 ベルリン大学教授フーフェラントの内科書 Enchiridion Medicum (医学必携、臨床入門) のオランダ語訳に感銘を受けた洪庵は、義弟緒方郁蔵らとともにこれを翻訳し、書名を『扶氏経験遺訓』とした。翻訳終了後15年を経た安政4年(1857)年、治療編の最初の3巻と薬方編2巻が完成し、翌年に刊行発売された。全30巻が出版されたのは文久元年(1861)のことである。



病学通論

緒方洪庵訳述 嘉永2年(1849)
 本書は日本語で書かれた最初の病理学書である。洪庵は師宇田川榛斎(玄真)の遺志を受け継ぎ、原書を調べ、榛斎の遺稿を補充校正して出版した。

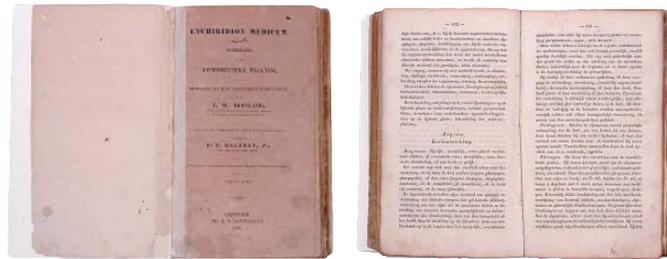


洪庵の薬箱

洪庵が40歳頃まで使用したと考えられる薬箱。最上段は上蓋をかぶせる形で、第二段から下は五段の引き出しで構成され、生薬の薬袋72袋が納められている。

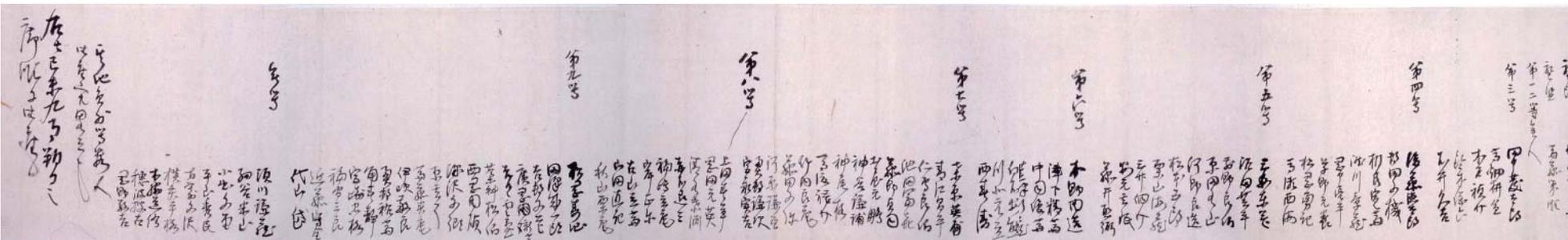
緒方洪庵和歌「自然之臣」

年未詳
 洪庵主著の一つ『病学通論』の第三巻の「治癒」の項にもみられる、自然治癒の力を大きく認める洪庵の思想を詠んだもの。「自然之臣也 天地の神のおしへのほかにわか くすしのみちの のりあらめやは 章」



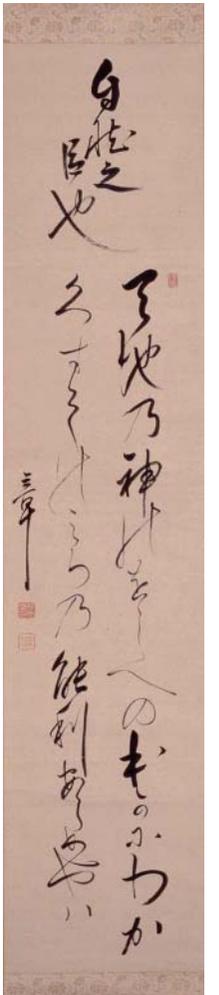
Enchiridion Medicum

フーフェラント原著、ハーヘマン蘭訳 1838年版
 洪庵が『扶氏経験遺訓』の翻訳に使用した内科書。ドイツ人フーフェラントの原著第二版を、オランダのハーヘマンJr.が蘭訳したものである。



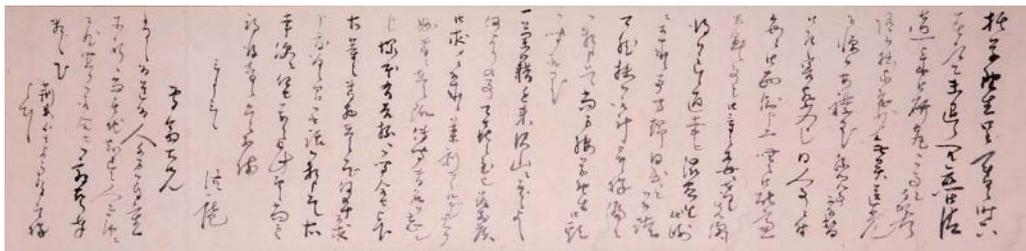
適塾塾生等級別名簿

安政6年(1859)
 安政6年(1859)9月朔日現在の適塾生81名の席次。このときの塾頭長と専齋、塾監齋藤策順の名が冒頭に見え、第一等から第九等までの各等および無等の者を記す。(第一、二等はこの時該当者無し。)



【新収蔵資料のご紹介】

適塾記念センターでは、最近、財団法人緒方医学化学研究所様より、故緒方富雄博士(洪庵曾孫)の収集された適塾・洋学関係資料の寄贈を受けました。その一部は、秋に開催される大阪大学総合学術博物館特別展で展示される予定です。ここでは、寄贈資料の一部をご紹介します。



左から

緒方洪庵長と専齋宛書簡

安政7年(1860)3月3日
 洪庵が長と専齋に送った手紙で、息子惟準の監督や蘭書の入手を頼んでいる。

石川大浪「西方医祖必父像」

坪井信道賛 寛政12年(1800)画
 日本に現存するヒポクラテス像のうち、二番目に古いものといわれ、洋風画家石川大浪がコルネイキ所載の画像を模写したもの。天保12年(1841)、坪井信道が小石元瑞のために自作の医祖賛を加えている。

坪井信道「医祖賛」

天保12年(1841)
 洪庵の師である坪井信道が、天保10年頃につくった西洋医祖ヒポクラテスをたたえる五言律詩で、自身の塾の門人に書き贈ったもの。洪庵もこの詩を書き写している。

※ 資料は断りの無いものは全て適塾記念センター及び適塾記念会所蔵、画像提供は同センターによる。

1 適塾へ行こう

— 本学学生が175年の歴史を実感

175年前に創設された適塾。本学の学生および適塾記念会会員には無料で開放されています。大阪市のオフィス街、北浜周辺には、適塾を含めて史跡が実は多数集まっています。大都会の中に生き続ける歴史の探訪をしてみませんか？

本学文学部および文学研究科で日本史学を学んでいる学生18名が、卒業記念として3月に指導教員で適塾を研究する村田路人教授の案内のもと、適塾とその周辺史跡を巡りました。その様子を報告します。

① 適塾 (史跡・重要文化財)

京阪淀屋橋駅出口を出ればすぐ近くに適塾があります。見学当日は、翌日から展示物を入れ替えるため、いくつかの史料は原本を見ることができる最後のチャンス。特に、当時の塾生が寝食を共にし、柱に刀傷が残る2階の塾生大部屋が印象に残ったという声が多く聞かれました。



② 彦根藩蔵屋敷跡

大坂には各藩の蔵屋敷があったが、これもその一つ。現在の資生堂大阪ビルの位置。



③ 大阪慶應義塾跡

福澤諭吉が1873～75年に大阪に置いた慶應義塾の分校。現在、記念碑が建てられている。



④ 鴻池家本宅跡

現大阪美術倶楽部
江戸時代大坂の代表的な豪商鴻池家の屋敷跡。



⑤ 除痘館跡 現緒方ビル

1860年、除痘館(緒方洪庵らが開設した種痘所)が古手町からここに移転。現在「除痘館記念資料室」が開設。



⑥ 銅座跡 現愛珠幼稚園 (重要文化財)

江戸時代に銅の生産・流通を管理した銅座があったところで、その跡地に建つ愛珠幼稚園の園舎は、現存する日本最古の木造園舎。



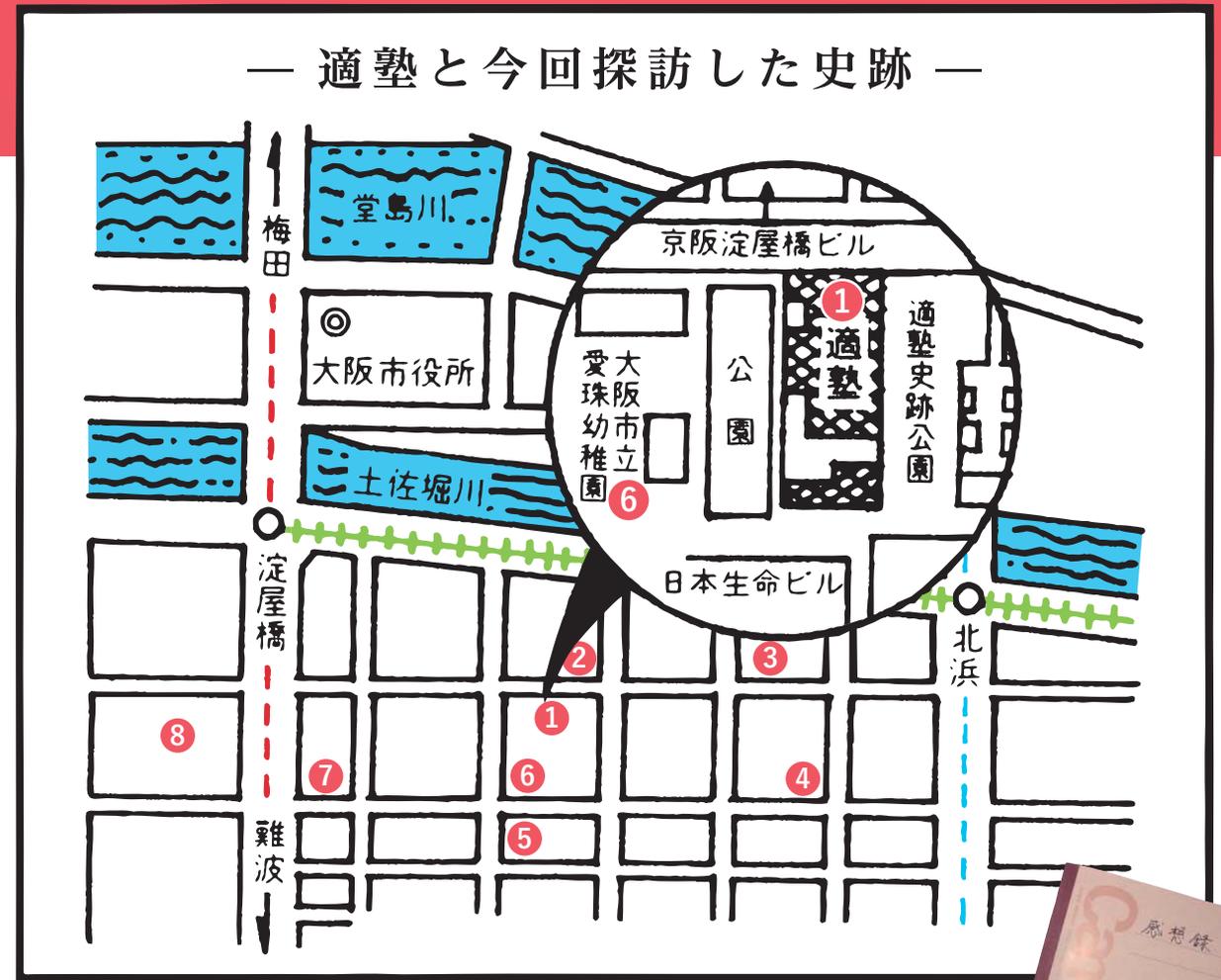
⑦ 懐徳堂跡

1724年に大阪町人らにより設立された学問所。大阪大学の精神的源流の一つ。今は石碑と案内板が当時の面影を伝えている。



⑧ 升屋敷跡 愛日小学校跡

船場の豪商升屋(山片)平右衛門の屋敷跡。明治維新期、升屋は屋敷を小学校(のちの愛日小学校)設立のために提供した。懐徳堂で学んだ山片蟠桃は、この升屋の番頭だった。愛日小学校は1990年廃校。跡地に建てられた淀屋橋odona内に歴史展示パネルあり。



参加した学生から・・・(学年は取材時)

田中光さん(文学部4年)

今回初めて訪れましたが、特に2階に残っている刀傷は、100年以上経った今もこのような形で残っているのはすごいことです。卒業後もまた来たいと思いました。

清水香穂さん(文学部4年)

「くすり」をテーマに近世史を学んでいることもあり、適塾にはいつ来ても勉強になります。市街地にこのような趣を残した形で建物が残っていることはすごい。

<感想録より>

1人1畳で生活していたことなど、先人の志を感じ、気持ちを新たに頑張ろうと思いました。ありがとうございました。(2013.3.10 Nさん)

このような場所が大阪の中心街にあることに驚きました。史跡を残してくれた方に敬意と感謝を表します。(2013.3.6 岐阜市Hさん)

当時の学生がどのような気持ちだったのか、また緒方氏自身がどのような心持ちで日々を過ごしていたのか、色々と考えられる良き機会となりました。(2013.3.8 Kさん)



1 適塾へ行こう

— 関連書籍の紹介

【 洪庵・適塾を知る7冊 】

適塾と緒方洪庵の事跡については、これまで多くの研究蓄積があります。ここでは、大阪大学の研究者によるものを中心にご紹介します。
※①～⑥は、適塾において販売されています(①は適塾でのみ販売)。



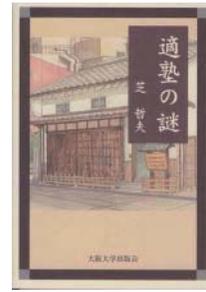
①藤野恒三郎監修
『緒方洪庵と適塾(改訂版)』
(適塾記念会、1993年)

大坂における蘭学の発展、緒方洪庵の生涯と業績、適塾生の事績などを豊富な図版によって解説したもの。1980年、適塾の解体修復工事完了と一般公開を契機に刊行された。1993年に改訂版を刊行。



②梅溪昇
『緒方洪庵と適塾』
(大阪大学出版会、1996年)

緒方洪庵とその家族、適塾の学風や事蹟について総合的に紹介し、全国の門下生の活躍についてもまとめている。情報豊富ながわかりやすく、入門に最適な、コンパクトにまとめられた1冊。



③芝哲夫
『適塾の謎』
(大阪大学出版会、2005年)

長年適塾の門下生調査を継続してきた著者による。ゾーフ部屋の正確な位置はどこだったのか?に始まり、洪庵や適塾、塾生にまつわる謎や、問題の所在を次々と明らかにする過程が興味深い1冊。



④米田該典
『洪庵のくすり箱』
(大阪大学出版会、2001年)

洪庵と薬のかかわり、洪庵使用の薬箱の内容分析、幕末の薬事情等について知ることができる。医学者や教育者として名高い洪庵の、また別の側面が明らかに。



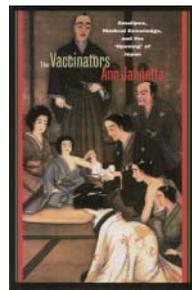
⑤適塾記念会編
『適塾アーカイブ—貴重資料52選—』
(大阪大学出版会、2002年)

適塾記念会および大阪大学が所蔵する適塾関係資料から代表的なものを収録した図録。その一部は本特集でも紹介している。



⑥適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会編
『緒方洪庵全集』
第一巻(扶氏経験遺訓 上)、
第二巻(扶氏経験遺訓 下)
(大阪大学出版会、2010年)

『緒方洪庵全集』は全5巻の予定で、洪庵生誕200周年の2010年より刊行がはじまった。第一巻および第二巻は『扶氏経験遺訓』を収録。翻刻、注・索引の作成、解説は芝哲夫大阪大学名誉教授(故人)による。



⑦Ann Jannetta
The Vaccinators: Smallpox, Medical Knowledge, and the "Opening" of Japan
(Stanford University Press, 2007)

アメリカの日本医学史研究者による、日本への種痘導入の過程を論じた著作。日本の種痘の事例研究を総合し、それを国際的な医学史研究の文脈に位置づけた記念碑的な著作。

{ 平成25年度 大阪大学 適塾関連事業(予定) }

適塾見学会(適塾記念会会員対象)
夏季見学会 6月2日(日) 13:00～開催場所: 適塾およびその周辺 / 秋季見学会 10月頃(予定) 開催場所: 未定

「適塾創設175周年・緒方洪庵没後150年記念」大阪大学シンポジウム
8月3日(土) 13:00～18:00
開催場所: コングレコンベンションセンター(うめきた・グランフロント大阪 ナレッジキャピタル B2F)
内 容: 「未来医療」をテーマに講演会とパネル討論を実施(対象: 一般・高校生)
講 師: 西田幸二(医学系研究科教授)、川崎和男(大阪大学名誉教授)、久坂部羊(作家)

適塾講座
第1回 9月21日(土) 14:00～15:30 / 第2回 9月28日(土) 14:00～15:30 / 第3回 10月5日(土) 14:00～15:30
開催場所: 中之島センター 5階講義室 507
テ ー マ: 病院と製薬企業の歴史 —ヨーロッパと日本の経験から—
コーディネーター: 澤井実(経済学研究科教授)

特別展(総合学術博物館との共催) 10月下旬～1月上旬(予定) 開催場所: 総合学術博物館待兼山修学館

阪神奈大学生涯学習ネット公開講座フェスタ 11月(予定)
開催場所: さいかくホール(予定) 講師: 廣川和花(適塾記念センター准教授)

適塾記念講演会 11月(予定) 開催場所: 未定 オーガナイザー: 古谷大輔(言語文化研究科准教授)

{ 適塾記念会入会のご案内 }

適塾記念会では、1952年の設立以来現在に至るまで、大阪大学の構成員と市民が協同して、適塾と緒方洪庵の事績を研究・顕彰し、その成果を会誌『適塾』や、適塾特別展示、適塾講座や講演会などの形で一般に公開してきました。会員対象の行事「適塾見学会」等も開催しています。

今日、大阪大学が適塾の精神と歴史を継承し、いっそうの学術研究と教育をいっそう発展させるためにも、教職員や学生の皆様にぜひご入会いただきますようお願いいたします。



『適塾』の表紙画は、大久保昌一本学名誉教授に描いていただいております。

【入会方法等】
会 費: 普通会員: 年間1口2,000円、賛助会員は、年間1口10,000円
会員特典: ・会誌『適塾』(年刊) および記念会が主催する各種行事案内の送付
・適塾および「特別展」の参観無料
・適塾で販売中の図録、絵はがき、「扶氏医戒之略」複製が売価の1割引で購入可能
入会方法: ①会費を適塾及び適塾記念会事務局まで直接持参
②郵便振替にてお支払い

※詳しくは、適塾のウェブページ(本学公式ウェブのトップページにバナーがあります)をご覧ください。下記までお問い合わせ願います。

【お問い合わせ先】
大阪大学適塾記念センター内 適塾記念会事務局(大阪大学会館内)
TEL 06-6850-5016

2 「臓器提供してよかった」と思えるために — 生体肝移植ドナーのQOL向上をめざして —

本特集では、大阪大学の個性的で魅力のある研究に焦点をあて、現在の研究内容や、研究への取り組みを紹介していきます。今回は、肝提供された生体ドナーの方々のQOL (Quality of Life) について研究されている医学系研究科保健学専攻の師岡友紀講師から、ご自身の研究内容に加えて、研究支援員制度※を利用された経験について寄稿いただきました。

生体肝移植ドナーのQOLとは？

肝移植には、脳死後の臓器提供による移植と、血縁者や配偶者から肝臓の一部の提供を受ける「生体肝移植」があります。生体肝移植は、「誰が臓器提供者(ドナー)になるかという問題」に加えて、「臓器受容者(レシピエント)自身の思い」が絡んでおり、より複雑になっています。ドナー、レシピエント双方にとって個人だけでなく家族としての意思決定が必要となるため、移植施設では担当医とともにレシピエント移植コーディネーターが介在し、関係者に対する支援に尽力しています。私自身の研究の焦点は、ドナーの方々が、術後に「いろいろ大変だったけど臓器提供できてよかった」と思い、自身のQOLをよりよいものと感じるために看護は何をしたらよいのだろうか、というところにあります。

ドナーは、回復していくレシピエントの姿を目にするという大きな喜びを得るため、小さくない手術侵襲を乗り越える必要があります。術直後は、様々な苦痛の中、今まで当たり前できていたことが突然できなくなることで精神的にも動揺し

ます。身体への侵襲や苦痛は心理的安寧を脅かし、不安定な心理状況になります。また、程度の差はありますが、何らかの後遺症を自覚する場合があります。残念なことに、移植後のレシピエントが亡くなってしまったり、そうした術後において、レシピエントが亡くなってしまったけれど肯定的に移植手術を受け止めるドナーがいる一方、レシピエントの回復が良好でも荒んだ気持ちを抱えているドナーの方がいることが分かってきました。いったい何が移植手術の評価に影響するのだろうか?というのが当初の疑問です。

これまでの研究から、ドナーのQOLは、手術によるダメージの程度、キズについての認識、開腹手術による消化器症状の程度、後遺症を感じる程度、移植手術への満足感および負担感、周囲の人々に理解されていると感じる程度、といった要素により決定づけられると考えています。また、より詳細な分析により、手術の前後にできるだけ少ない負担で過ごすこと、回復過程において心理的に安定して過ごすことは、長期的にも影響がある事項と推察しています。今後も、

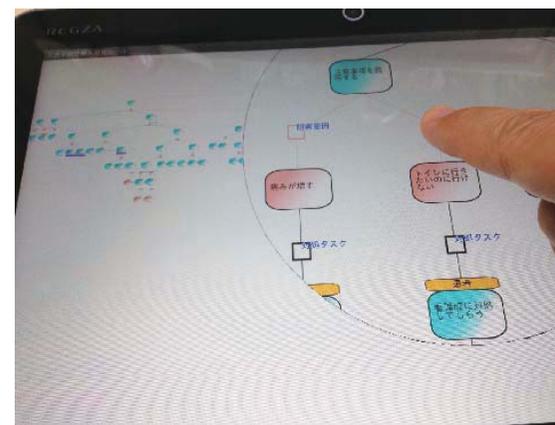
生体肝移植ドナーの心理を明らかにすることを通して、「良い選択ができた」と思えるための支援につなげていきたいと考えています。

看護教育の向上をめざす研究

上記以外に、看護学生に対するよりよい教育をめざす研究にも取り組んでいます。ご縁があって本学産業科学研究科知識システム研究分野の笹嶋宗彦先生のグループと看護教員で、タブレット端末を用いた看護教育支援ツールを共同開発しています(下記写真)。

手術前・中・後の看護(周手術期看護)においては、術前後という学生にとって未知の場面に、いったいどのような技術が必要で、どのような手順で臨機応変にそれを行うのかということ学ぶ難しさがあります。これまでシミュレーション演習を通して習得をめざしてきましたが、求められる知識が膨大であるため、単純な暗記では手順に伴う根拠や目的を失いがちであるという問題を感じていました。

そこで、笹嶋先生方の提案されるCHARM (Convincing Human Action Rationalized Model)という人間行動モデルに基づいて、看護師が手術後患者の観察の際に必要な一連の知識を、順序指向と目的指向の両方で学習できることをめざしています。また、タブレット端末を使用する利点を生かし、繰り返し動画で確認できること、自身の手技を客観的に評価できることなどによっても、教育効果が高まることを期待しています。



タブレット端末を用いた看護教育支援ツール

研究者としての成長を支える環境

研究を継続しつつ教育にも十分なエネルギーを注ぎ、プライベートでは育児と家事をこなしていくことは、やはり容易なことではありません。環境が整っていることが必須となります。幸いにも私自身は、安心して子供を預けられる学内保育園を利用させていただき、理解のある上司や同僚がいて、研究支援員制度を活用して時間を確保して、といった具合に、大阪大学の教員であることの恩恵を十二分に享受していると感じています。このたび記事に取り上げていただく機会をいただき、改めまして感謝の念をお伝えしたいと思います。ありがとうございました。

※「研究支援員制度」は、出産・育児・介護で研究時間が確保しにくい研究者を支援するため、研究支援員を雇用する制度です。研究者が出産・育児・介護により研究を断念することなくキャリア形成を継続することを支援し、また、研究者を志す方にとっても実際の研究者との交流の機会を提供することで、次世代につなぐサポート連鎖を形成することを目的としています。

今年度制度利用者の募集は既に締め切っておりますが、研究支援員の登録申請は随時受け付けております。興味のある方は、男女共同参画推進オフィスまでお問い合わせください。

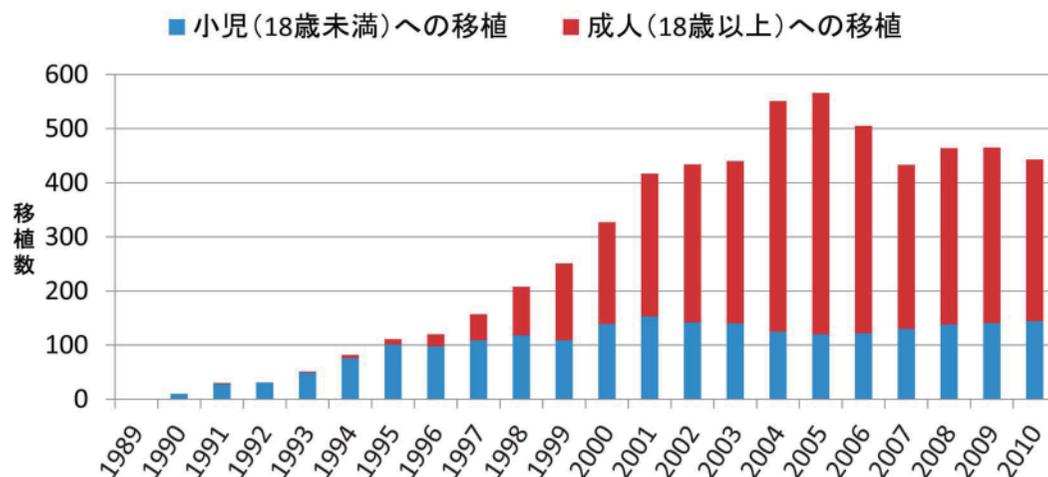
【問い合わせ先】

大阪大学 男女共同参画推進オフィス
電話：06-6879-4405 (内線 4405 / 9573)
FAX：06-6879-4406
Email：geoffice-gea@ml.office.osaka-u.ac.jp



師岡友紀 (もろおかゆき)

京都大学教育学部卒、京都府立医科大学医療技術短期学部卒(看護師免許取得)、大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程修了。看護師の臨床経験を経て、2004年大阪大学大学院医学系研究科助手、07年助教、12年より講師。保健学博士。



日本肝移植研究会；肝移植症例登録報告，移植46(6)，525頁，表2参照。

日本における生体肝移植数の推移(1989年～2010年)

役員室 だより

“世界トップ10”に向けた部局 マネジメント及び人材獲得支援策

大阪大学は、創立100周年を迎える2031年には、研究型総合大学として世界のトップ10に入ることを目指して、以下の大きな3つの柱に沿って大学改革を進めています。

- 1) グローバルな人材、優秀な(若手)研究者を育成すること。そのためには、研究環境の充実はもちろんのこと、研究費、給与、報奨制度といった面で、学外からは「大阪大学へ行きたい」「大阪大学に憧れる」、学内では「大阪大学はやりがいがある」など、魅力ある大学にしていく必要があります。
- 2) また、総長のトップマネジメントと、部局長や事務長の裁量をうまく機能させ、個々の部局が自ら積極的に常にワンランク上を目指す活気ある取組みができるよう、構成員に促すことが重要です。そのための支援をしていきます。
- 3) さらに、一番大事なことは個々の教職員が大阪大学をよくするという意識と自覚をもって教育、研究、職務に邁進していくことです。

そのため、次の具体的な支援策を実行していきます。

1. 卓越した外部人材の招致

◆グローバル化推進教授招へいプログラム

教員の多様化並びに国際化、学部・大学院学生教育のグローバル化の推進を支援することを目的として、国際的に評価されている外国の研究型大学で学位(Ph.D.)を取得し、世界トップレベルの優れた業績をあげている研究者を大阪大学教授として新たに雇用する場合に教育研究経費を交付する。

◆大阪大学特別教授制度

本学が国際競争力のある教育・研究の世界的拠点となるため、本学の未来戦略を推進していく上で、卓越した業績を活かし、先導的な役割を担う教員に対し、「大阪大学特別教授」の称号を付与するとともに、その活動を支援する手当として「特別教授手当」を支給する。

2. 内部人材の更なるパワーアップ

◆間接経費配分の見直し

研究者の裁量権を強めることにより、研究の推進を図るという観点に基づき、研究者に間接経費全体の20%が配分されるような配慮を部局長に要請する。

◆研究者に対する報奨制度の拡充

科学研究費補助金などの競争的資金を新たに獲得した研究者や、多額の間接経費を獲得した研究者を報奨するため、新たに大阪大学総長顕彰により表彰し、報奨金を支給する。

◆大阪大学特別教授制度

※概要は、上記「1. 卓越した外部人材の招致 ◆大阪大学特別教授制度」のとおり。

3. 部局マネジメントの充実

◆部局長未来戦略裁量経費の配分

本学の未来戦略実現のため積極的に取り組み、優れた成果をあげた部局に対して、「部局長未来戦略裁量経費」として年度当初に500万円を配分する。

◆事務(部)長未来戦略裁量経費の配分

部局運営、大学全体の強化等に積極的に取り組み、優れた成果をあげた部局の事務部及び本部事務機構の各部等に対して、「事務(部)長未来戦略裁量経費」として年度当初に100万円を配分する。

支援策の詳細は
学内専用サイト「マイハンドай」をご覧ください。

マイハンドай
>総長から大阪大学構成員のみなさまへ

情報推進機構の設置

4月1日に、本学の情報に関する方策全般について企画及び運営を行い、情報基盤の整備、情報化の推進及び情報サービスの高度化を図ることを目的として情報推進機構を設置しました。

これまでは、情報担当理事のリーダーシップのもと、情報企画室が中心となり全学的な情報に関する方策の企画及び運営並びに全学基幹システムに係る情報基盤の整備などを行い、また他方では、サイバーメディアセンターが大学の情報通信網であるネットワーク及び教育に係る情報基盤の整備を行ってまいりました。情報推進機構を設置することにより、これらの業務を情報担当理事の統括のもと、サイバーメディアセンターが中核となって情報推進機構が一元的に行うとともに、大学全体の情報システムに関する全学支援業務を行うこととなります。

これにより、本学の情報に関する方策の策定とその実現に向けた基盤整備を更に推進させるとともに、本学の情報に関する方策全般に係る経費削減を図ることを目指します。

理事・副学長(産学連携・情報担当) 馬場 章夫

大阪大学の「ブランディング計画」とは
第3回広報ネットワーク連絡会を開催

2月19日、吹田キャンパスコンベンションセンターにて広報ネットワーク連絡会を開催しました。第3回目となる今回は、各組織の広報責任者や広報業務に興味を持つ教職員ら約90名に参加いただき、「ブランディング」をキーワードに講義形式で実施しました。

「ブランディング」の定義、考え方、実践例や、大阪大学ロゴのブランディング活用方法など、学内で実際にブランディングをもとに様々な活動をしている学内の3名の教員から具体的な話題提供があり、「ブランディングでは、まず現状を把握し、そのうえで、どのような情報を誰に伝えるのかを考えることが重要」と意識を共有することができました。

最後に実施したアンケートでは、それぞれのコンテンツの理解度も高く、「シンポジウムの参加者を増やすために、次回からはプロセスを踏んだ募集が実践できそうだ」「主体がどこにあるか、どう見られたいか、どう伝えたいかを考えることが重要であることが分かった」との意見がありました。これからも、広報ネットワークを通じて、大阪大学の様々な広報情報を皆さんに積極的に提供していきたいと考えています。

当日の配付資料は、学内専用サイト「マイハンドアイ」に掲載しております。

マイハンドアイ>本部事務機構>広報関係
>広報からのお知らせ

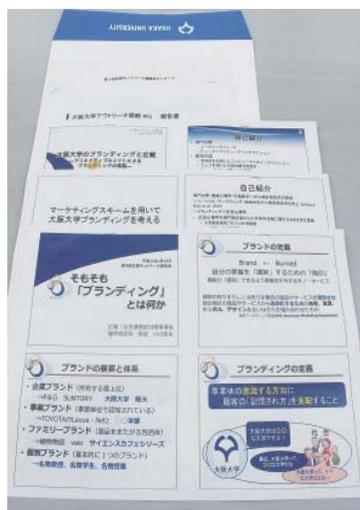
理事・副学長(広報・社会学連携担当) 江口 太郎



大型教育研究プロジェクト支援室
平井准教授による講演



真剣な表情で聴講する各
局広報担当者



当日の配付資料

～学び続ける大学職員を目指して～

「大阪大学未来セミナー」今年も開催します!

「大阪大学未来セミナー」は、大阪大学の職員が、大学の多様なミッションや大学と社会との関わりなどについて、大阪大学の現在の姿に照らしながら理解と関心を深め、広い視野と主体的な自己研鑽の姿勢を養うことを目的とした研修です。

平成25年度は6～8月の間、昨年度と同様、全8コマで実施予定です。詳しい内容は、決まり次第お知らせします。皆さまの積極的なご参加をお待ちしております!

様々な角度から大学のミッションや課題に迫るコース内容
これまで知らなかった「大阪大学の姿」を捉える!

平成 25 年度の研修内容 (予定)

国立大学の財政とガバナンス	大学における研究と研究者とは?	大学における危機とリスク(基礎と実践)
大学図書館の多様化する役割	大学教育の使命(現状と課題)	大学の国際化と異文化理解
医療現場から学ぶ大学病院の「ヒト・モノ・カネ」の仕組み	大阪大学の広報とブランド戦略: 見せるから魅せるへ	職場としての大学(人材育成、目標共有など)

大阪大学未来セミナー第一期生(平成24年度受講者)に質問。
「参加してみてどうでしたか?」



土出 郁子さん
(附属図書館吹田地区図書館サービス課(生命科学図書館)専門職員(図書系))
大学の中の様々な「専門性」が見えてきて、それまであまり意識してこなかったことにも目が向くようになりました。また、大学全体の動きの中で図書館の役割を見つめ直し、将来に向けて何をすべきか、真剣に考えるきっかけになったと感じています。



永見 一彰さん
(微生物病研究所会計係 事務職員)
「大学のことをもっと知らない」と思いました。もしこの研修への参加を迷っている後輩がいたら、「自分の目の前の仕事も大切だけど、大学の仕事って驚くほど色々あるぞ!知らない阪大を知れるで!」と背中を押ししたいですね。



稲角 直也さん
(理学部技術部分析測定室 技術職員)
この研修を通じて、学内の色々なところに職種を超えた仲間が増えたのは大きな収穫でした。自分に無い知識や視点を取り入れて、新しいサービスとか、やりたい仕事を実現できる可能性が広がったと思います。

白熱のグループワーク!



国立大学の役割について
ディスカッション

直に見て、聞いて学ぶ



医学部附属病院での
ドクターヘリ見学

「参加型学習」で双方向の学び



阪大PRのための
プレゼン資料作成

★第一期生へのインタビューの詳細や、平成24年度の研修の様子を、マイハンドアイに詳しく掲載していますので、是非ご覧ください。

マイハンドアイ>大学本部事務機構>プロジェクトマネジメントチーム(PMT) 関係

総務企画部経営企画課 Project Management Team (PMT)

金森順次郎元総長の追悼講演会を開催

3月1日(金)に、中之島リーガロイヤルホテルにおいて、平成24年11月13日に82歳で逝去された金森順次郎第13代総長・名誉教授追悼講演会を開催しました。当日は、金森先生の古くからの友人や門下生、学会関係者など、約250名の参加がありました。

追悼講演会では、篠原厚理学研究科長による開会の辞のあと、赤井久純、楠本正一、畑田耕一の各本学名誉教授、平尾泰男東京大学名誉教授、斯波弘行東京工業大学および東京大学名誉教授から、金森先生の業績や思い出話等についてそれぞれ講演があり、最後に、平野俊夫総長から追悼の言葉がありました(平野総長の追悼の言葉は本学公式ウェブページに掲載)。

また、講演会終了後にはメモリアルパーティーが催されました。パーティーは、熊谷信昭第12代総長の挨拶のあと、岸本忠三第14代総長の献杯に始まり、生前に親交の深かった方々からのスピーチと、金森家を代表して、ご長男の金森嘉夫氏から挨拶がありました。



講演会次第

開会の辞	大阪大学大学院理学研究科長	篠原 厚
追悼講演		
「金森先生のご業績」	大阪大学名誉教授	赤井 久 純
「学生時代からの思い出」	東京大学名誉教授	平尾 泰 男
「金森先生の磁性研究と金森スクール」	東京工業大学及び東京大学名誉教授	斯波 弘 行
「金森先生のリーダーシップ」	大阪大学名誉教授	楠本 正 一
「金森先生の思いやりと奉仕の心」	大阪大学名誉教授	畑田 耕 一
追悼の言葉	大阪大学総長	平野 俊 夫

元大阪大学総長 金森 順次郎 名誉教授 メモリアルパーティー 次第

開会の辞	大阪大学大学院理学研究科長	篠原 厚
挨拶	大阪大学名誉教授	赤井 久 純
	元大阪大学総長	熊谷 信 昭
献 杯	元大阪大学総長	岸本 忠 三
来賓スピーチ		
	大阪大学名誉教授	江 尻 宏 泰
	大阪大学名誉教授	志 水 隆 一
	インターメタリックス代表取締役	佐 川 眞 人
	東京大学名誉教授	寺 倉 清 之
	東京理科大学副学長	福 山 秀 敏
	大阪大学名誉教授	橋 本 日出男
親族挨拶		金 森 嘉 夫
閉会の辞	大阪大学理事・副学長	恵比須 繁 之

大阪大学シンポジウム「創ること 超えること」を開催

3月24日(日)に、大阪大学シンポジウム「創ること 超えること」(毎日新聞社後援)を毎日新聞社オーバルホールで開催しました。当日は、約380名の学生や市民の方々の参加がありました。

シンポジウムの第1部では、学内から平田オリザ コミュニケーションデザイン・センター教授と藤田喜久雄 工学研究科教授による講演、学外からは作曲家・尺八演奏家の中村明一氏による講演および演奏がありました。続く第2部では、毎日放送アナウンサー 西 靖氏(本学法学部卒)の総合司会による講演者の座談会が行われました。座談会の中では、グローバル化する世界の多様な価値観の中で、日本の文化、日本の教育が今後どうあるべきか、次世代に求められる人財とは、などについて、専門的見地と多様な視点から意見が交わされました。



レーザーエネルギー学研究センターが創基 40 周年

レーザーエネルギー学の基礎・応用に関する最先端研究を進めてきたレーザーエネルギー学研究センターが40周年の節目を迎えました。世界でもトップクラスのガラスレーザー照射設備「激光XII号」は、1986年には当時の世界最高となる10兆個の中性子の発生に成功し、次世代半導体開発研究などの成果を重ね、現在では、核融合反応を用いた次世代エネルギーの開発・研究や、宇宙の起源に迫る研究など、それらの研究域を拡大させ、40年を経ても、日々進化を遂げています。

3月4日(月)には、創基40周年を記念して講演会が開催され、参加者は世界屈指のレーザー装置の数々を目の当たりにし、そのスケールの大きさを肌で感じていました。



施設見学会の様子

脳情報通信融合研究センターが設立

大阪大学・情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センターが4月に設立されました。本センターには、大阪大学と独立行政法人情報通信研究機構(NICT)を軸として株式会社国際電気通信基礎技術研究所(ATR)も加わり、脳情報通信の分野において優れた業績を挙げている研究機関、さらには医学、工学等の脳情報通信の分野以外の研究者等の参画を積極的に求め、研究のみならず、人材育成など、産学連携も積極的に進めます。今後、大量のデータを電子化し、高速に通信、処理する情報通信技術(ICT)と、世界的規模での研究が活発となっている人間のコミュニケーションの中核である脳に関する研究開発を融合させ、生命の複雑制御に学んだ解決法を提案し、脳機能の理解を通して知の創造の促進によるコミュニティの生産性や競争力の向上を目指していきます。3月6日(水)には、研究拠点となる新棟の開所式が行われ、柳田敏雄脳情報通信融合研究センター長から同センターの概要および今後の展望についての説明がありました。



左から、柳田センター長、森本浩一 文部科学省審議官、平野俊夫 大阪大学総長、宮原秀夫 NICT 理事長、小笠原倫明 総務省事務次官、平田康夫 ATR 代表取締役社長

外国人留学生修了パーティを開催

3月13日(水)に、外国人留学生修了パーティが千里阪急ホテルで開催されました。同パーティは、平成25年3月に本学を修了(卒業)予定の外国人留学生とその家族を総長が招待し、祝賀・懇談の場とするもので、毎年開催されております。当日は、本学教職員をはじめ、修了者のホストファミリーやボランティア家主の方々も含めて約275名が参加し、参加者は写真撮影や団らんを楽しむなど、終始和やかなひとときを過ごしていました。また、参加した留学生からは、「阪大の学生はフレンドリーだった」「留学生相談室がとても親切で安心して学生生活を送ることができた」「博士後期課程に進学しても頑張りたい」などの声が聞かれました。



友人との写真撮影を行う留学生



キャンパスの桜

写真の詳細はOWLをご覧ください。

OWL { カテゴリ: 阪大の自然
キーワード: 桜/春/豊中キャンパス/吹田キャンパス

OWL (Osaka University Web Library) とは…
大阪大学の学内構成員(学生・教職員)が、大阪大学のさまざまな素材を自由にダウンロードし、利用するためのウェブサイトです。最適化された高画質な画像、各種資料やプレゼンに利用できるテンプレートを利用規約を満たす限り自由に利用できます。「阪大百景」は、クリエイティブユニットがクリエイティブ・コモンズライセンスで提供する画像ライブラリで、カテゴリおよびキーワードから写真を選択できます。OWLには「マイハンダイ」からログインのうえご利用ください。https://my.osaka-u.ac.jp

職員インタビュー

「夢は世界大会出場 仕事もバドも基本が大事」

藤田岳志 (ふじた たかし) 財務部資産決算課資産管理係主任

仕事の傍らで、多いときは昼夜問わず週10回近くバドミントンの練習に励む藤田岳志さん。昨年は大阪総合選手権大会30歳以上の部で優勝、全国大会の常連になってきている。そんな戦績を持つ一方で、「基本」の大切さを学び直したという藤田さんが、仕事にも通じる自身の人生観を語ってくれた。



自分のプレースタイルが邪魔をする

実は、バドミントンを本気でやり始めたのは社会人になってから。大学でもそこそこやっていましたが、その時は「部活」の枠を超えることはありませんでした。今は、食事やトレーニングなど競技以外の面にも気を配るようになりました。特に、食事には気を遣っています。以前、試合前日の夕食でバランスの悪い食事をしたら、試合中にスタミナが切れてしまったことがありました。大学で医療の勉強をしていたこともあり、野菜を多めに摂るようにしたり、たんぱく質などの摂取量の目安も決めたりしています。そんな話をすると、周りは「大変だね」と引きませんが(笑)、慣れると全く苦になりません。

僕は基本練習よりも手先のテクニックとスピードさえあれば勝てると考えており、身体能力でカバーする戦い方をしていました。それで、実績も上げていましたから、そのプレースタイルに自信も持っていました。でも、2年前、一つの転機がありました。当時、一緒にペアを組んだ先輩は、まさに「基本の塊」ともいべき人で、基本をおろそかにしない人。失敗のたびに、その方に「お前はそういうところが雑なんや」ってよく叱られました。叱られてばかりで腹立たしくなることもありましたが、自分よりテクニックやスピードのない選手に負けることが続き、そんな時に、先輩のプレーをじっくり観察したんです。本当に基本に忠実でした。「基本=本質」ということに気づき、自分のプレースタイルに閉じこもっていたらいけないなってわかったんです。最近では、他の人のプレーでいいところはどんどん取り入れることで成長している実感があります。

基本が大事なのは仕事でも同じ 小さなプライドは捨てる!

バドミントンで「基本」を考えるようになったとき、仕事でも同じような機会を与えてくれた上司と出会いました。その方には、書類の書き方や電話での説明の仕方など、「何でこんなことまで」というぐらい仕事の基本をよく注意されました。以前の自分だったら小さなプライドが邪魔をしていたけれど

も、バドミントンでも同様の経験をしていたので素直に聞こうと思えました。プライドがあると、それを守らないといけないからしんどい。自分が知らないことは素直に認めて、人の意見を聞くようになったらすごく楽になります。あと、人の自分とは異なる点を素直に認めることもできるようになります。これまでは「もっとこうすればいいのに何で・・・」と思っていたことが、「そういう考え方もあるのか!」と思えるようになりました。

大学の事務職員は、いろんな人と仕事ができる点に魅力を感じています。PMTが企画している「大阪大学未来セミナー」(27ページ参照)に参加しているいろいろな考え方が学内には溢れていることを知りました。どこにでも自分の枠を広げられるチャンスは散らばっています。いろいろな発見をみんなが共有して、いい大阪大学を作り上げるために、自分にできることを探していきたいですね。



夢は世界シニア選手権出場

世界シニア選手権は、全日本シニアのベスト8に入れば出場資格が与えられます。これまでは、個人戦ベスト32が最高ですが、決して不可能ではないと思っています。もし出場できたら、阪大のロゴマークをユニフォームに付けてプレーしたい。大阪大学を世界にアピールできますし(笑)。そのためには、今後も基本的な食事やトレーニングを欠かさずしっかり体を作り、自分の殻を破り続けるプレーをしていきたいです。



法人文書は「国民共有の知的資源」

大阪大学アーカイブズ

大阪大学アーカイブズは、平成24(2012)年10月1日に設置された組織です。アーカイブズは、法人文書資料部門と大学史資料部門の2部門から構成され、「公文書等の管理に関する法律に基づく特定歴史公文書等及び本学の歴史に関する資料の適切な管理を行い、本学の教職員及び学生並びに一般の利用に供することにより、本学の円滑な管理運営に資するとともに、教育、研究、社会貢献に寄与すること」(大阪大学アーカイブズ規程第2条)を目的としています。室長(教授併任)、専任教員(准教授)1、兼任教員12で構成されています。事務担当は総務企画部総務課文書管理室です。

アーカイブズは、平成25年4月1日付で、公文書等の管理に関する法律および同法施行令に基づき、「国立公文書館等」(国立公文書館に類する機能を有する施設)として内閣総理大臣の指定を受けました。また、大阪大学アーカイブズ大学史資料部門は、「歴史資料等保有施設」として同じく内閣総理大臣の指定を受けました。

アーカイブズは平成15年度末からの準備期間を経て、2つの内閣総理大臣の指定を受けたことにより、平成25年度から本格的な業務を行うことができました。



五十年史編纂資料の一部

これまで、大阪大学(大阪外国語大学、旧制の大阪帝国大学・大阪医科大学・大阪工業大学・大阪高等学校・浪速高等学校・大阪薬学専門学校・大阪外国語学校・大阪外事専門学校やその前身校を含む。)の歴史に関する様々な資料の収集・整理・保存は行ってきました。例えば、学内刊行物、大阪大学五十年史編纂資料、会議記録などの文書資料、講義ノート、卒業アルバム、学生運動関係のビラなどです。これらは、大学史資料部門において今後も引き続き収集しますが、「歴史資料等保有施設」として指定を受けたことにより、新たに所蔵資料を一般公開するようになりました。



法人文書の移管を待つアーカイブズ書庫

さらに、「国立公文書館等」の指定を受けたことにより、保存期間が満了した法人文書のうち歴史的文化的価値を有するもの(「歴史公文書等」)については、アーカイブズに移管することになりました。このため、国立大学法人大阪大学法人文書管理規程が改正されました。教職員のみならず、現在作成・収受されている法人文書の中にも、アーカイブズに移管され永久保存されるものがあります。法人文書は「国民共有の知的資源」(公文書等の管理に関する法律第1条)なのです。法人文書の移管を受け、それを整理・保存・公開することがアーカイブズの中核業務です。その業務を遂行するためには、教職員のみならず日々適切な文書管理を行っていただくことが重要です。

本年2月22日～3月9日には、国立公文書館所蔵資料展「国立公文書館が大阪大学にやってきた」を総合学術博物館待兼山修学館で開催しましたが(主催:国立公文書館、共催:アーカイブズ・総合学術博物館)、この展示会では本学の法人文書も展示しました。このような展示活動も行っていく予定です。

アーカイブズは大阪大学構成員のみならず、どなたにも開かれた施設です。みなさまのご利用をお待ちしております。

(アーカイブズ准教授 菅 真城)

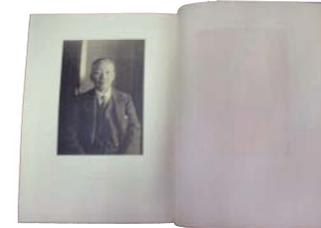


国立公文書館所蔵資料展の様相



大阪大学アーカイブズ OSAKA UNIVERSITY ARCHIVES

—管理資料の一例—



大阪帝大医学部 第1期生アルバム
(昭和7年)



大阪帝国大学一覧
(昭和6～18年)



大阪医学校化学講義ノート
(明治24年)



万葉旅行貸切電車ヘッドマーク
(昭和61年)



法人文書ファイル等



阪大NOW等の広報刊行物

【問い合わせ先】

大阪大学アーカイブズ
箕面キャンパス管理棟

Tel.072-730-5113 Fax.072-730-5114

E-mail: office@archives.osaka-u.ac.jp

開室時間: 月～金曜 9:30～16:30

(祝日・年末年始を除く)



表彰等

平野俊夫総長から 学生2名と大阪大学漕艇部に感謝状贈呈



医学部保健学科4年(当時)の向井夕貴さんと井上亜梨沙さん、漕艇部にそれぞれ、人命救助および火災発生時に消火活動等を行ったことに対して平野総長より感謝状が贈呈されました。

第9回日本学士院学術奨励賞

社会経済研究所	松島法明 教授
---------	---------

平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰

工学研究科	平田好則 教授	科学技術賞(開発部門)
歯学研究科	野田健司 教授	科学技術賞(研究部門)
基礎工学研究科	鈴木義茂 教授	
生命機能研究科	吉森保 教授	
免疫学フロンティア研究センター	荒瀬尚 教授	
医学系研究科	藤原祐一郎 准教授	若手科学者賞
医学系研究科	柳澤琢史 助教	
工学研究科	佐伯昭紀 助教	
基礎工学研究科	木須孝幸 准教授	
基礎工学研究科	若林裕助 准教授	
生命機能研究科	竹本龍也 助教	

第4回大阪大学総長による表彰

文学研究科	中野耕太郎 准教授
人間科学研究科	佐藤真一 教授
経済学研究科	澤井実 教授
理学研究科	小川琢治 教授
	高橋篤史 准教授
	青木順 助教
	吉成信人 助教
	田中啓文 助教
	川村和司 技術職員
医学系研究科保健学専攻	柳澤琢史 助教
医学系研究科保健学事務室	池本忠雄 室長
工学研究科	武石賢一郎 教授
	河崎善一郎 教授
	佐藤了平 教授
	藤田喜久雄 教授
	萩原幸司 准教授
	山岡信夫 技術専門員
	中田淳二 技術専門職員

基礎工学研究科	大塚敏之 教授
	新井健生 教授
	堀川敬太郎 准教授
	前泰志 准教授
	西竜志 准教授
	大原賢一 特任講師
	満留敬人 助教
産業科学研究科	八木康史 教授
	鈴木健之 准教授
	榎原靖 助教
	榎原昇一 係長(産研技術室)
免疫学フロンティア研究センター	華山力成 特任准教授
核物理研究センター	緒方一介 准教授
	味村周平 准教授
全学教育推進機構	今西亜友美 准教授
大型教育研究プロジェクト支援室	平井啓 准教授
情報推進部情報基盤課	中島重雄 課長補佐

第2回(平成24年度)サイエンス・インカレ

理学部	中森祐未さん(B2)	独立行政法人科学技術振興機構理事長賞
基礎工学部	富岡誠さん(B4)	サイエンス・インカレ奨励表彰
基礎工学部	武内真梨奈さん(B4)	サイエンス・インカレ奨励表彰
基礎工学部	大野良介さん(B4)	特別協力企業賞(DERUKUI)
理学部	兒玉拓也さん(B4)	協力企業賞(東京化成工業賞)
工学部	小亀千鶴さん(B4)	協力企業賞(日本曹達賞)

平成24年度退職時永年勤続者表彰

大阪大学	平成24年度「おおさかストップ温暖化賞」優秀賞	
情報推進機構	柏崎礼生 助教	情報処理学会インターネットと運用技術シンポジウム2012 優秀プレゼンテーション賞
外国語学部	松本祐季さん(B1)	第6回神田外語大学インドネシア語スピーチコンテスト 総合優勝
	山本幸己さん(B2)	第6回神田外語大学インドネシア語スピーチコンテスト カテゴリー A 第1位
	的野加奈さん(B1)	南山大学外国語学部主催第5回インドネシア語スピーチコンテスト 暗唱の部 第3位
医学系研究科	森正樹 教授	平成24年度(第42回)高松宮妃癌研究基金学術賞
	片上直人 寄附講座助教	日本糖尿病学会 リー賞
薬学研究科	古徳直之 助教	平成24年度日本薬学会近畿支部 奨励賞
工学研究科	中山智詞さん(M1)	2012年度キャンパスベンチャーグランプリ 全国大会審査委員会特別賞
	森陽一朗さん(M1)	
	山田利彦さん(M1)	
	安本周平さん(M1)	
基礎工学研究科	吉元俊輔 助教	第17回日本バーチャルリアリティ学会大会 学術奨励賞
	横田一広 特任研究員	第29回(2012年度)井上研究奨励賞
	田中佑治さん(M1)	Photonics West-BIOS 2013(主催:SPIE) Best Poster Award
	重松大輝さん(M1)	日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞
	高武直弘さん(M1)	電子情報通信学会 エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞
	生命機能研究科	近藤滋 教授
免疫学フロンティア研究センター	華山力成 特任准教授	アステラス病態代謝研究会 最優秀理事長賞
	鈴木一博 特任准教授	日本免疫学会 研究奨励賞
	齊藤達哉 特任准教授	
	伊勢涉 特任准教授	

総務企画部	松本紀文
情報推進部	渡洋二
施設部整備課	瀬戸口巖
全学教育推進機構等事務部	西澤晴陽
附属図書館吹田地区図書館サービス課	小川晋平
附属図書館箕面地区図書館サービス課	青山功
医学部附属病院	富永信子
	安井洋子
	岡悦子
	羽田容子
	武岡加代子
	永島たき
	児玉智子
三木弘	

医学部附属病院管理課	内田康博
医学部附属病院医事課	岩浅幸男
	山本猛
歯学部附属病院	上田朝子
	能勢浩行
工学部	山岡信夫
工学研究科総務課	松本吉弘
	松本秀子
	美作美幸
工学研究科経理課	伊藤龍雄
工学研究科教務課	渡智恵子
基礎工学部	川嶋将夫
	北谷和弘
基礎工学研究科事務部	森根正則
	内田郁子
	福田伸子

言語文化研究科・外国語学部豊中事務室	津村和孝 猿木一郎
言語文化研究科・外国語学部箕面総務室	額田聡
情報科学研究科	吉田貴至 小泉文弘
生命機能研究科事務部	園田厚生
産業科学研究科総務課	白濱三義
蛋白質研究所	西尾チカ
社会経済研究所	川端和子
超高压電子顕微鏡センター	田口英次
保健センター	林ルミ
科学教育機器リノベーションセンター	石本正治

人事

— 新理事補佐 —

平成25年4月1日	茶園成樹	高等司法研究科	人事労務担当
	西田幸二	医学系研究科	産学連携担当

— 新部局長 —

平成25年4月1日	医学系研究科・医学部長	金田安史
	社会経済研究所長	小川一夫
	接合科学研究所長	片山聖二
	低温センター長	田島節子
	核物理研究センター長	中野貴志
	サイバーメディアセンター長	西尾章治郎

— 新施設長 —

平成25年4月1日	医学系研究科附属共同研究実習センター長	森井英一
	薬学研究科附属薬用植物園長	平田收正
	薬学研究科附属実践薬学教育研究センター長	宇野公之
	薬学研究科附属創薬センター長	小比賀聡
	工学研究科附属超精密科学研究センター長	遠藤勝義
	工学研究科附属アトミックデザイン研究センター長	澁谷陽二
	微生物病研究所附属感染動物実験施設長	伊川正人
	微生物病研究所附属生体応答遺伝子解析センター長	伊川正人
	産業科学研究所附属総合解析センター長	加藤修雄
	産業科学研究所附属量子ビーム科学研究施設長	真嶋哲朗

— 新教授 —

平成25年2月1日	瀧井克也	【所属】国際公共政策研究科 比較公共政策専攻比較公共政策講座 【最終学歴】H12.5 ペンシルバニア大学大学院経済学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	大槻恒裕	【所属】国際公共政策研究科 国際公共政策専攻システム統合講座 【最終学歴】H13.8 メリーランド大学カレッジパーク校大学院農業資源経済学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
平成25年3月1日	黒木和彦	【所属】理学研究科 物理学専攻量子物理学講座 【最終学歴】H2.3 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了	【前職】電気通信大学
	藤野裕士	【所属】医学系研究科 医学専攻生体統御医学講座 【最終学歴】S60.3 大阪大学医学部卒業	【前職】本学講師
平成25年3月16日	赤井周司	【所属】薬学研究科 医療薬学専攻生命医療薬物科学講座 【最終学歴】S62.3 大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了	【前職】静岡県立大学
平成25年4月1日	片瀬悦久	【所属】文学研究科 文化表現論専攻西洋文学・語学講座 【最終学歴】H3.3 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了	【前職】本学准教授
	YAMAMOTO BEVERLEY ANNE	【所属】人間科学研究科 人間科学専攻先端人間科学講座 【最終学歴】H12.2 シェフィールド大学大学院日本研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	斉藤弥生	【所属】人間科学研究科 人間科学専攻社会環境学講座 【最終学歴】H5.6 ルンド大学政治学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	武田邦宣	【所属】法学研究科 法学・政治学専攻比較法政講座 【最終学歴】H11.3 神戸大学大学院法学研究科博士課程後期課程修了	【前職】本学准教授
	長田真里	【所属】法学研究科 法学・政治学専攻比較法政講座 【最終学歴】H11.3 大阪大学大学院法学研究科後期課程修了	【前職】本学准教授
	北村亘	【所属】法学研究科 附属法政実務連携センター 【最終学歴】H13.7 京都大学大学院法学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授

— 新教授 —

平成25年4月1日	佐々木晶	【所属】理学研究科 宇宙地球科学専攻惑星物質学講座 【最終学歴】S62.7 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了	【前職】RISE月惑星 探査検討室
	松本博志	【所属】医学系研究科 医学専攻社会環境医学講座 【最終学歴】H3.3 和歌山県立医科大学医学部卒業	【前職】札幌医科大学
	遠藤淑美	【所属】医学系研究科 保健学専攻看護実践開発科学講座 【最終学歴】H15.3 千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	渡邊浩子	【所属】医学系研究科 保健学専攻生命育成看護科学講座 【最終学歴】H19.3 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了	【前職】滋賀医科大学
	神出計	【所属】医学系研究科 保健学専攻総合ヘルスプロモーション科学講座 【最終学歴】H2.3 高知医科大学医学部卒業	【前職】本学講師
	山城隆	【所属】歯学研究科 口腔科学専攻口腔分化発育情報学講座 【最終学歴】H7.3 大阪大学大学院歯学研究科博士課程修了	【前職】岡山大学
	日野正訓	【所属】基礎工学研究科 システム創成専攻数理計量ファイナンス講座 【最終学歴】H10.1 京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了	【前職】京都大学
	渡邊伸治	【所属】言語文化研究科 言語文化専攻言語コミュニケーション論講座 【最終学歴】H61.3 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	山下仁	【所属】言語文化研究科 言語文化専攻言語コミュニケーション論講座 【最終学歴】S61.3 立教大学大学院文学研究科博士課程前期課程修了	【前職】本学准教授
	杉田米行	【所属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパ・アメリカI講座 【最終学歴】H11.5 University of Wisconsin-Madison 博士課程修了	【前職】本学准教授
	畑田美緒	【所属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパ・アメリカI講座 【最終学歴】H2.3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	長谷川信弥	【所属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパ・アメリカII講座 【最終学歴】H1.3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	平田恵津子	【所属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパ・アメリカII講座 【最終学歴】H4.12 カリフォルニア大学ロサンゼルス校修士課程修了	【前職】本学准教授
	MARTIN SYLVIE MARIE-NOELLE	【所属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパ・アメリカII講座 【最終学歴】S60.10 ブルゴーニュ大学修士課程修了	【前職】本学准教授
	筒井佐代	【所属】言語文化研究科 日本語・日本文化専攻日本語・日本文化講座 【最終学歴】S63.3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	長谷川亨	【所属】情報科学研究科 情報ネットワーク学専攻情報流通プラットフォーム講座 【最終学歴】S59.3 京都大学大学院工学研究科博士前期課程修了	【前職】KDDI研究所
	石井優	【所属】生命機能研究科 生命機能専攻個体機能学講座 【最終学歴】H10.3 大阪大学医学部卒業	【前職】本学特任教授(常勤)
	工藤喬	【所属】保健センター 【最終学歴】H3.3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	水田一郎	【所属】保健センター 【最終学歴】S58.3 大阪大学医学部卒業	【前職】神戸女学院
	岸田泰浩	【所属】日本語日本文化教育センター 【最終学歴】S63.3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	中田一志	【所属】日本語日本文化教育センター 【最終学歴】H4.3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	松岡茂登	【所属】サイバーメディアセンター 先端ネットワーク環境研究部門 【最終学歴】S60.3 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了	【前職】NTT情報ネットワーク総合研究所
	宇野勝博	【所属】全学教育推進機構 学部共通教育部門 【最終学歴】S60.1 イリノイ大学大学院数学専攻博士課程修了	【前職】大阪教育大学

～ 学内の施設が新しくなりました～

— 平成24年度定年退職者 —

— 教員 —

人間科学研究科	小泉潤二 堤修三
法学研究科	河田潤一 中尾敏充
経済学研究科	高橋伸光
理学研究科	稲葉章 伊吹山知義 高原文郎 福山恵一 井上明男 大和健二
医学系研究科	阿曾洋子 井上修 大平充宣 荻野敏 三上洋 黒澤努 佐々木仁
歯学研究科	寺岡文雄 松本憲
工学研究科	伊東一良 大島巧

工学研究科	川崎和男 河崎善一郎 久保司郎 佐藤了平 瀬恒謙太郎 武石賢一郎 中山喜萬 宮田幹二 藤原順介 村田雅人 井上晴行 打越純一 森田全紀
基礎工学研究科	大垣一成 辻本良信 三宅和正
言語文化研究科	竹田新 富田健次 成田一 野村泰幸 深澤一幸

言語文化研究科	堀江新二 南田みどり
国際公共政策研究科	米原謙
情報科学研究科	村上孝三
生命機能研究科	近藤壽人 村上富士夫
微生物病研究所	岡部勝
産業科学研究所	谷澤克行 山口明人
接合科学研究所	阿部信行 小林明
国際教育交流センター	三牧陽子
極限量子科学研究センター	高井幹夫
保健センター	井上洋一 杉田義郎
グローバルコラボレーションセンター	津田守
日本語日本文化教育センター	角道正佳 山蔭昭子 山本進
サイバーメディアセンター	中野博隆
全学教育推進機構	眞鍋昭治郎

— 事務・技術・教務・医療職員 —

総務企画部	松本紀文
情報推進部	渡洋二
施設部整備課	瀬戸口巖
理学研究科事務部	藤本郁子
医学部附属病院医療技術部	三木弘
医学部附属病院看護部	永島たき 岡悦子 児玉智子 羽田谷子 武岡加代子
医学部附属病院管理課	内田康博
医学部附属病院医事課	岩浅幸男 山本猛
歯学部附属病院総合技工室	能勢浩行

歯学部附属病院看護部	上田朝子 満留恵美子
工学部技術部	山岡信夫
工学研究科総務課	松本吉弘 松本秀子 美作美幸
工学研究科経理課	伊藤龍雄
基礎工学部	川嶋将夫 北谷和弘
基礎工学研究科事務部	森嶋正則 内田郁子 福田伸子
言語文化研究科・外国語学部豊中事務室	津村和孝 猿木一郎

言語文化研究科・外国語学部箕面総務室	額田聡
情報科学研究科	小泉文弘
生命機能研究科事務部	園田厚生
産業科学研究所総務課	白濱三義
蛋白質研究所技術部	西尾チカ
社会経済研究所事務部	川端和子
附属図書館吹田地区図書館サービス課	小川晋平 諏訪敏幸
附属図書館箕面地区図書館サービス課	青山功
超高压電子顕微鏡センター	田口英次
科学教育機器リノベーションセンター	石本正治
全学教育推進機構等事務部	西澤晴陽

訃報

医学部	松本圭史 名誉教授	平成25年2月3日 逝去
旧大阪外国語大学	牧祥三 名誉教授	平成25年2月8日 逝去
基礎工学部	吉森昭夫 名誉教授	平成25年2月18日 逝去

豊中キャンパス

カフェテリア「宙」に大阪王将がオープン
豊中キャンパスのカフェテリア「宙(そら)」の中に、3月25日、「大阪王将 阪大宙店」がオープンしました。大阪王将が学生食堂に出店するのは、本学が初めてのケース。オープン直後は多くの学生・教職員が行列を作っていました。「阪大豊中キャンパスDX定食(700円)」をはじめ、ボリュームたっぷりの本格中華が学内で味わえます。

大阪大学生協豊中福利会館がリニューアルオープン
4月1日、豊中福利会館が、学生・教職員の「さまざまな活動交流スタイルを誘発し、コミュニケーションを促すお店」をコンセプトとしてリニューアルオープンしました。36年ぶりに改修された館内では、開放感のあるカフェテリアやパーティスペースなどが充実しています。豊中キャンパスの新たな交流の場として、ますます活用されることが期待されます。

吹田キャンパス

歯学部附属病院エントランスの改修
歯学部附属病院では、「広く、高く、明るい」をコンセプトにエントランスが改修されました。ロータリーには、歯学部同窓会から寄贈された歯ブラシをモチーフとしたデザイン時計が設置されました。院内では、自動支払い機が導入され、コーヒーショップ“CAFE de CRIE”も新設されるなど、患者さんやお見舞いの方の利便性・快適性の向上が図られました。

大阪大学未来トーク「物事の本質を見極め世界に羽ばたく」

大阪大学は「未来戦略」を推進していきます。それを実践するための足掛かりとして、様々な分野で活躍中の著名な方に、各界の最先端の情勢を学内外の方を対象に講演していただく「大阪大学未来トーク」を実施します。



目的

様々な分野で活躍中の著名人の講演を定期的実施することで、本学の学部学生、大学院学生および教職員が、分野を超えて、物事を様々な角度から観るとともに、大局的に考えることができるように、また夢を持つきっかけとする。

対象

学部学生、大学院学生および教職員で希望するもの。ただし、博士課程教育リーディングプログラムの履修生は必須に準ずる。(一般参加も可)

参加方法

本学の学生・教職員は、学内専用サイト「マイハンドアイ」へログインのうえ、学内関係者専用フォーム(https://my.osaka-u.ac.jp/mt2013)により申込。

第1回

【日時】 4月30日(火) 17:00～18:30
 【場所】 コンベンションセンター(吹田キャンパス)
 【講演者】 平野俊夫 大阪大学総長
 【演題】 「この一瞬に挑む
 —Steps to the true essence of things—」

第2回

【日時】 5月13日(月) 17:00～18:30
 【場所】 大阪大学会館(豊中キャンパス)
 【講演者】 Lars Vargö (ラーシュ・ヴァリエ)
 スウェーデン大使
 【演題】 「スウェーデンと国際化」

第3回

【日時】 6月17日(月) 17:00～18:30
 【場所】 コンベンションセンター(吹田キャンパス)
 【講演者】 神余隆博 関西学院大学副学長
 (前在ドイツ特命全権大使)
 【演題】 「激動の世界情勢と日本の進路
 —日本は一流国か」

第4回

【日時】 7月16日(火) 17:00～18:30
 【場所】 大阪大学会館(豊中キャンパス)
 【講演者】 南部陽一郎 大阪大学特別栄誉教授
 【演題】 「物理学の周辺」



Lars Vargö (ラーシュ・ヴァリエ)

1947年ストックホルム生まれ。71年ウップサラ大学修士号取得。京都大学留学などを経て、78年から日本、リビア、米国などのスウェーデン大使館勤務を歴任し、2006年から駐韓スウェーデン大使。11年から現職。1982年には、日本研究で、博士号取得(ストックホルム大学)。98年日本国勲二等瑞宝章 受勲。日本の詩や、小説などのスウェーデン語翻訳も多数。



神余隆博 (しんよ たかひろ)

1950年香川県生まれ。72年大阪大学法学部卒業、外務省入省。ドイツ・ゲッティンゲン大学留学、ドイツ公使、欧州局審議官、国際社会協力部長などを経て2006年から国際連合日本政府代表部大使、08年から12年2月まで駐ドイツ大使。93年から96年は外務省からの出向で大阪大教授も務めた。2012年4月から関西学院大学副学長(国際戦略本部長)・教授に就任。



南部陽一郎 (なんぶ よういちろう)

1921年東京府東京市生まれ。42年東京帝国大学卒業。50年大阪市立大学教授。52年渡米し、シカゴ大学の研究員などを経て、58年同大学教授。78年文化勲章受章。95年大阪大学名誉博士。日本学士院会員。ウルブ賞など多くの国際賞を受賞。2008年「対称性の自発的破れ」を発見したことが評価され、ノーベル物理学賞受賞。大阪大学大学院理学研究科招へい教授。

問合せ先：未来戦略支援事務局総務係
 mirai-talk2013@iai.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来戦略シンポジウム —未来戦略機構、未来へ始動—

学内構成員のみならず積極的に参加のお願いです。

大学の力を最大限発揮するため創設した未来戦略機構の動きが加速しています。このたび、この取り組みを積極的に学内外へ発信するため、「大阪大学未来戦略シンポジウム」を開催します。シンポジウムでは、未来戦略機構が果たす役割、そこで進行中の教育研究推進部門のそれぞれの活動を紹介するとともに、国や産業界など学外から講演者をお招きし、大阪大学への期待を語っていただきます。是非、大阪大学が総力をあげて取り組む未来戦略機構の翔び発つ瞬間を目撃してください。

開催日：6月1日(土) 13:30 開始
 開催場所：ナレッジシアター(うめきた・グランフロント大阪 ナレッジキャピタル4F)
 問合せ先：未来戦略支援事務局 総務係 sympo2013@iai.osaka-u.ac.jp



大阪大学総合学術博物館 第16回企画展 オオサカがとんがっていた時代 —戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—

開催日時：4月27日(土)～7月6日(土) 10:30～17:00 入場無料
 開催場所：総合学術博物館 待兼山修学館
 開催趣旨：本展は、大阪が戦後の混乱から復興し、ヴァイタリティに富んでいた時代、すなわち1950年代から60年代にかけて、主に美術ではどのような実験的活動が試みられていたか、その実像の一端を明らかにしようとするものです。
 問合せ先：総合学術博物館待兼山修学館事務局 Tel 06-6850-6284



Handai-Asahi 中之島塾 (4～6月期)

開催日時：5月10日(金)～6月29日(土) 全6講座
 開催場所：中之島センター
 開催概要：朝日カルチャーセンターと大阪大学との共同講座で、主に学外からの受講生に向けて、大阪大学が取り組むユニークな研究の成果を本学研究者が講義します。
 参加方法：朝日カルチャーセンター中之島教室のウェブサイトまたは電話(06-6222-5224)により申込(随時受付中)。受講料1,575円(全2回の講座は3,150円)。
 問合せ先：21世紀懐徳堂 Tel: 06-6850-6443



大阪大学×大阪ガス アカデミックッキング vol.34 「香草・香辛料学入門 ～ベトナム編」

開催日時：6月26日(水) 18:30～21:00
 開催場所：大阪ガスッキングスクール千里(豊中市新千里東町1-3-141 せんちゅうPAL1F)
 開催趣旨：“食”や“料理”という身近な切り口から、学問的なものの見方・考え方を身につける教養講座です。専門的で難解な大学の先生の研究でも、どこかで普段のわたしたちの生活とつながっている…。そんな楽しい実感から、日常生活にちょっと変化をもたらすアカデミックな思考回路が生まれます。あなたも一緒に、ガス火で作る料理から新たな学びのとびらを開いてみませんか?【料理実習=「スパイスが魅力!ベトナム料理!】
 参加方法：ウェブサイト(5/1～)または電話(5/8～)により申込。定員24名。15歳以上ならどなたでも参加可(申込多数の場合は抽選)。受講料2,000円。
 問合せ先：大阪ガスッキングスクール千里 Tel: 06-6871-8561



大阪大学司馬遼太郎学術記念講演会

開催日：6月8日(土)
 開催場所：サンケイホールブリーゼ(大阪市北区梅田2-4-9 ブリーゼタワー 7F)
 開催趣旨：本講演会は、国民的作家、故司馬遼太郎さんの業績をしのび、日本人と日本人のあり方を考える講演会です。
 ※詳細は決まり次第本学公式ウェブページに掲載予定

昨年度講演会の様子

スポーツ大会
学内施設開放
展示会
模擬店
講演会
体験
いちょう祭とは
大阪大学創立記念日（5月1日）を祝い、かつ、企業をあげて新入生の皆さんを歓迎するとともに学生・教職員・地域の方との親睦を図るための行事です。
OB・OGの方はホームカミングデー（5/3）

いちょう祭

2013 5/2(木) - 3(祝・金)
大阪大学 豊中キャンパス・吹田キャンパス
www.osaka-u.ac.jp

第8回ホームカミングデイ

【日 時】平成 25 年 5 月 3 日（金・祝日）
10:30 ~ 13:30

【場 所】大阪大学会館講堂
（挨拶・活動報告・卒業生による講演）
図書館下食堂（懇談会）

【対象者】大阪大学卒業生、現旧教職員など、
大阪大学関係者

【プログラム】・総長挨拶
・大阪大学同窓会連合会会長挨拶
・卒業生による講演
日本私立学校振興・共済事業団
河田悌一 理事長

※参加申し込みについては、本学
公式ウェブサイト (www.osaka-u.ac.jp) をご覧ください。

【問い合わせ先】
大阪大学同窓会連合会事務局
TEL : 06-6444-5186



河田悌一 理事長

「大阪大学未来基金」へのご寄付のお願い



大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的とする「大阪大学未来基金」を設けております。大阪大学の未来を支えるため、企業、団体、個人のみなさまからのご支援をお願い申し上げます。

【個人の皆さまへ】

ご寄付の方法：ゆうちょ銀行・金融機関からのお振込、クレジットカードでのお引き落としをご利用いただけます。また、ゆうちょ銀行・金融機関からは毎年1回定額を自動引き落としとしてご利用いただくことができます。（詳しくは、未来基金のホームページ（本学公式ウェブのトップページにバナーがあります）をご覧くださいか、基金事務局（下記）までお問合せをお願いいたします。）

税法上の優遇措置：所得税控除等を受けることができます。（詳しくは、同ホームページでご確認いただけます。）

お問い合わせ先：大阪大学 基金事務局
TEL: 06-6879-8327 FAX: 06-6879-4337
email: kikin@office.osaka-u.ac.jp

